

八丈町子ども・子育て支援計画(第3期)

資料編

資料1 八丈町子ども・子育て支援計画及び次世代育成支援行動計画策定委員会……………	1
資料2 未就学児保護者用ニーズ調査結果……………	2
資料3 小学生保護者用ニーズ調査結果……………	44

資料1 八丈町子ども・子育て支援計画及び次世代育成支援行動計画策定委員会

(1)委員名簿

区 分	氏 名
八丈町に住所を有する子どもの保護者	魚 谷 孝 之
	平 井 一 弘
八丈町の子ども・子育て支援に関する事業に従事する者	魚 谷 萌
	小 黒 真 吾
	土 屋 洋 子
	内 山 智 温
教育関係者	川 畑 伊 豆 海
	東 達 康
民生・児童委員	梅 田 龍 示
	磯 崎 光 宏
	沖 山 紀 子
児童福祉に理解があり地域の実情を知る者	山 下 芙 美 子
八丈町職員	奥 山 和 恵
	田 村 久 美
	小 野 高 志

(2)関係機関との連携

本計画は、児童福祉事業の運営主幹である福祉健康課厚生係のほか、関連する部門との密接な連携を図りながら策定しています。

資料2 未就学児保護者用ニーズ調査結果

(再掲)

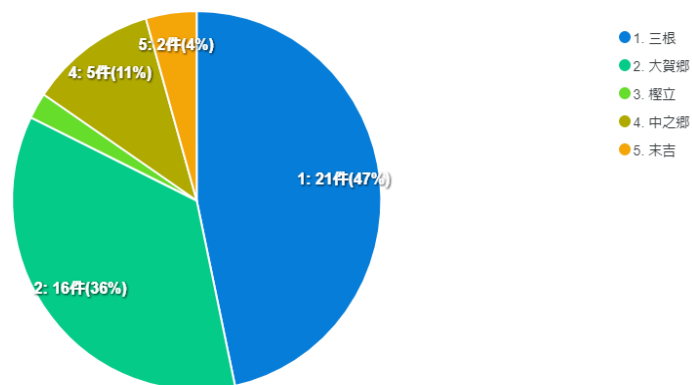
1 対象者	むつみ第二保育園、若草保育園、あおぞら保育園の全園児の保護者
2 対象者数	218人
3 調査方法	アンケート回答二次元コードを印刷した文書を配布、保護者がWEB上で回答する方法で実施
4 調査期間	令和6年10月15日(火)～令和6年10月31日(木)

調査対象者	回答者数	有効回答率
218人	45人	20.64%

世帯の状況や、緊急時の子どもの預け先の有無など31問の調査項目を設定しました。園児の保護者を対象として、WEB上でのアンケートを実施しました。集計結果は確保を図るべき教育・保育・子育て支援の量の見込みの算出や質の状況を把握するために役立っています。

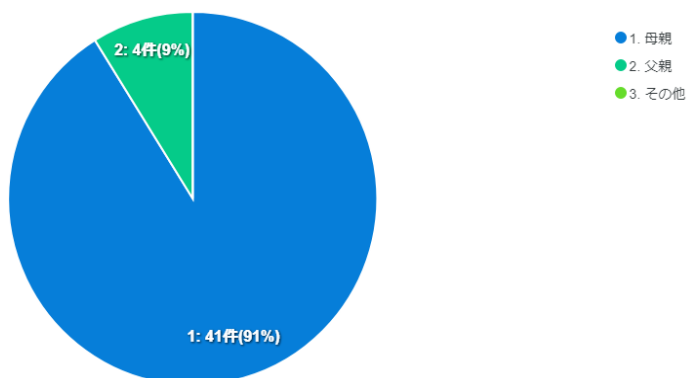
■お住まいの地域について

三根在住が47%、大賀郷36%、樫立2%、中之郷11%、末吉4%となっています。



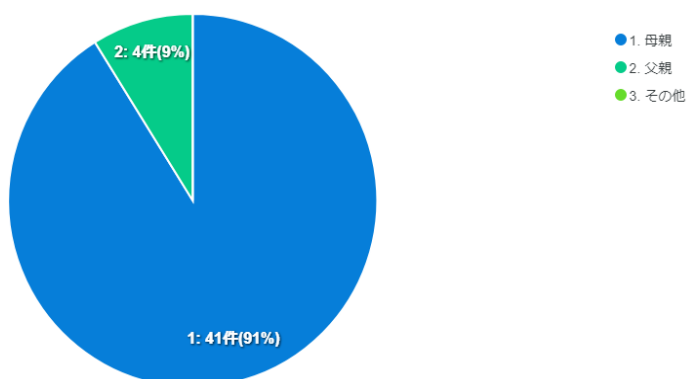
■この調査票にご回答いただいた方について

未就学児世帯は母親の回答が91%、父親の回答が9%となっています。



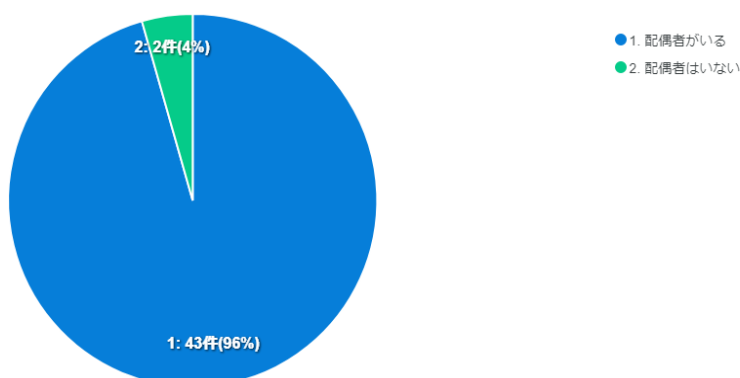
■この調査票にご回答いただいている方の配偶関係について

配偶者がいるが96%、配偶者はいないが4%となっています。

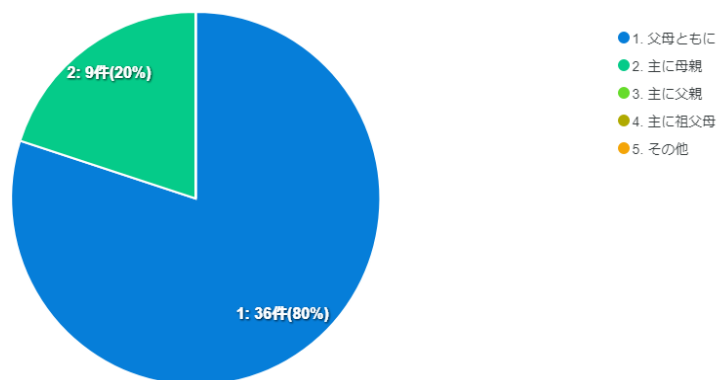


■この調査票にご回答いただいている方の配偶関係について

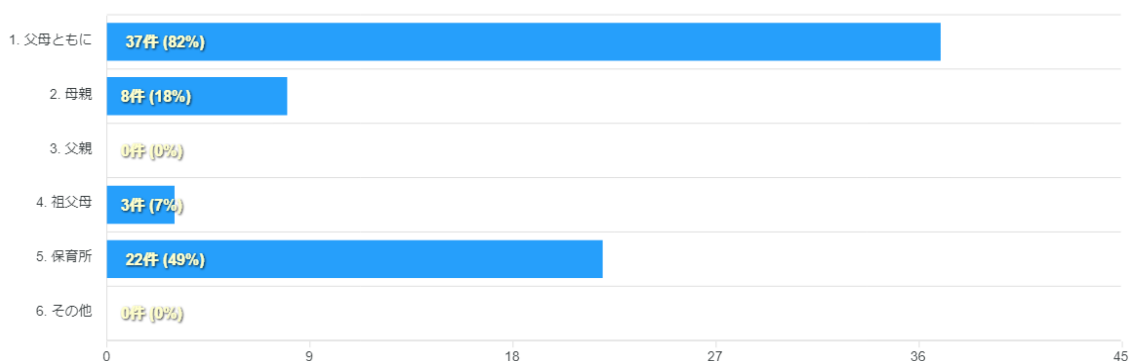
配偶者がいるが96%、配偶者はいないが4%となっています。



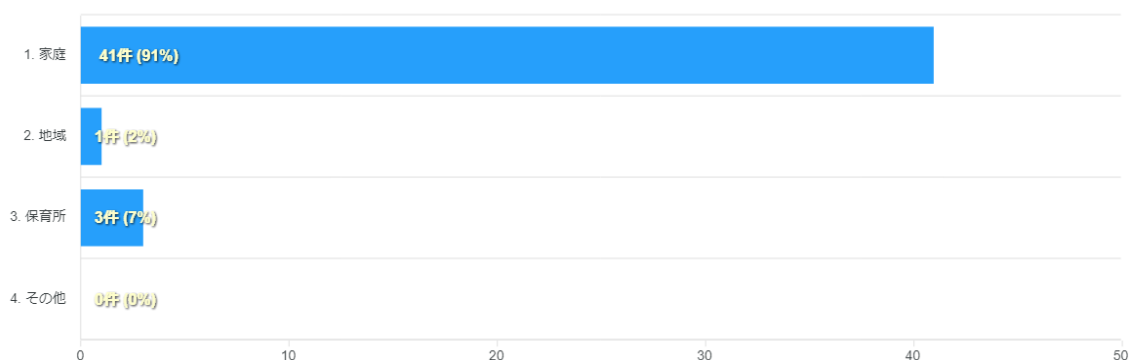
■子育て(教育を含む)を主に行っている人について
 「父母ともに」が80%、「主に母親」が20%となっています。



■子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方、または施設について当てはまるものすべて
 「父母ともに」が82%、「母親」が18%、祖父母7%、保育所22%となっています。

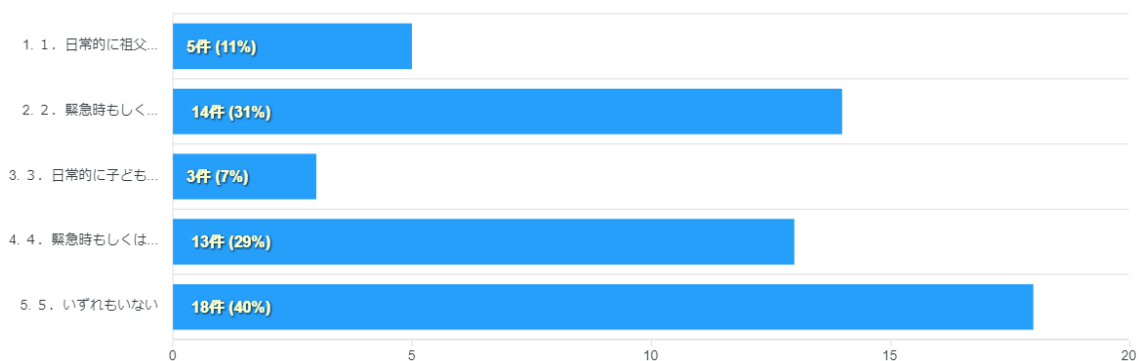


■子育て(教育を含む)に、もっとも影響すると思われる環境について、当てはまるもの全て
 「家庭」が91%、「地域」が2%、「保育所」が7%でした。



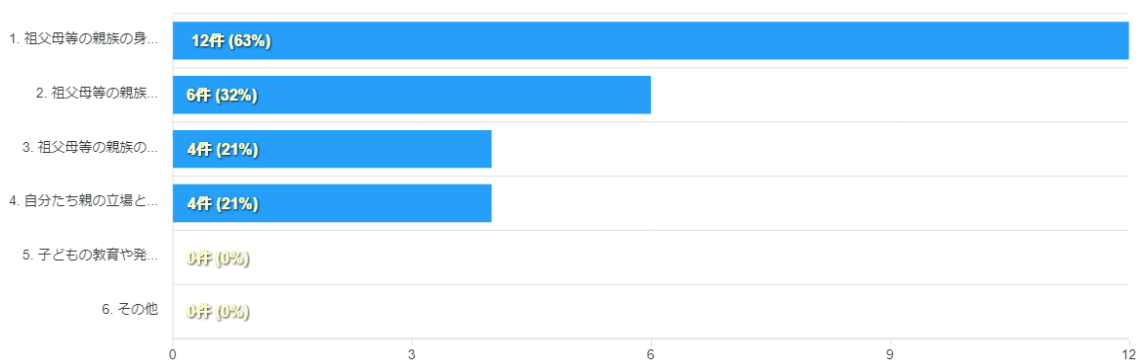
■日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無について

「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が11%、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が31%、「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が7%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が29%、「いずれもない」が40%となっています。



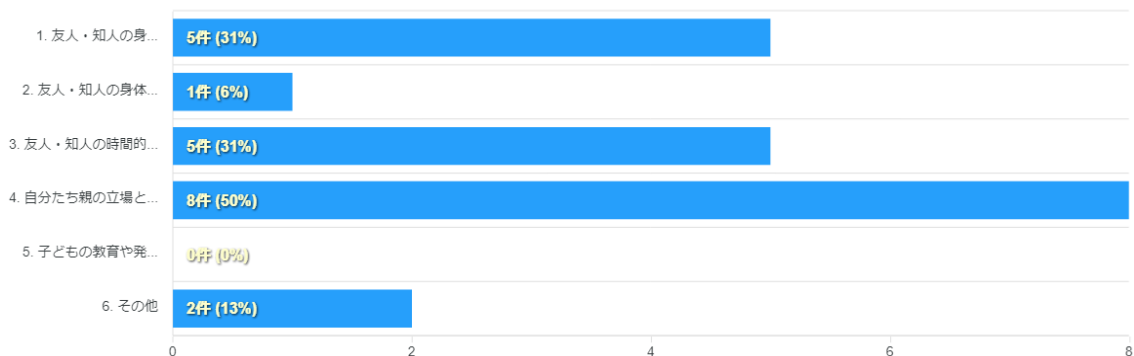
■祖父母等に子どもをみてもらっている状況について

「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が63%、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が32%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が21%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が21%、「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある」が0%、「その他」が0%となっています。



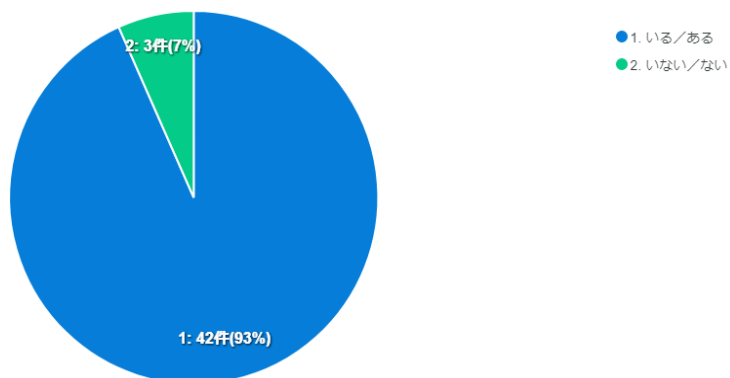
■友人・知人に子どもをみてもらっている状況について

「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 31%、「友人・知人の身体的負担が大きく心配である」が 6%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 31%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 50%、「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある」が 0%、「その他」が 13%となっています。



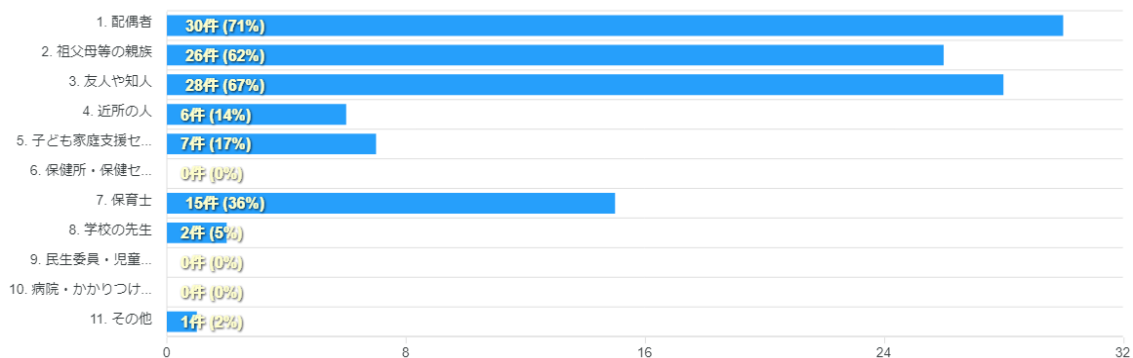
■子育て(教育を含む)をするうえで、気軽に相談する人の有無について

「いる/ある」が 93%、「ない」が 7%となっています。



■気軽に相談できる人・施設について(当てはまるものすべてに回答)

「配偶者」が71%、「祖父母などの親族」が62%、「友人や知人」が67%、「近所の人」が14%、「子ども家庭支援センター」が17%、「保育士」が36%、「学校の先生」が5%、「その他」が2%となっています。



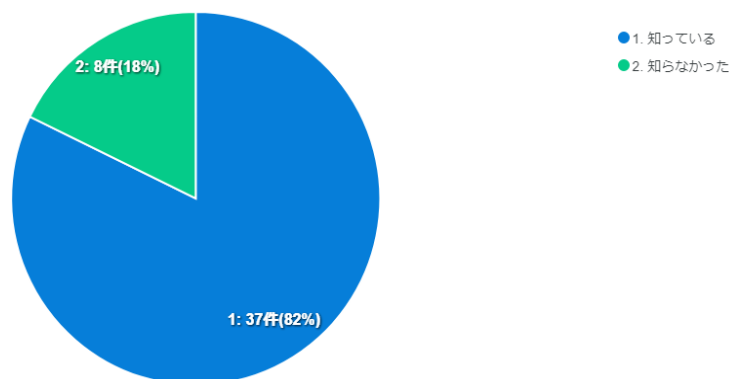
■「児童虐待」の通告先について(知っている者すべてに回答)

「児童相談所」が96%、「警察」が76%、「知らない」が2%、「その他」が7%となっています。

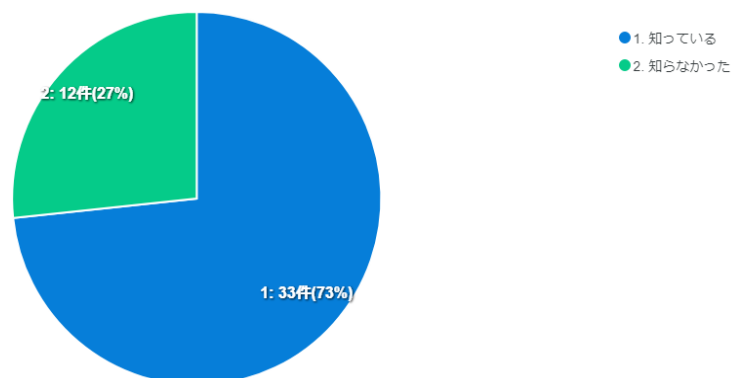


■「児童虐待」の通告は「虐待の疑いがあると思う」場合でも、連絡できることを知っていたかどうか。

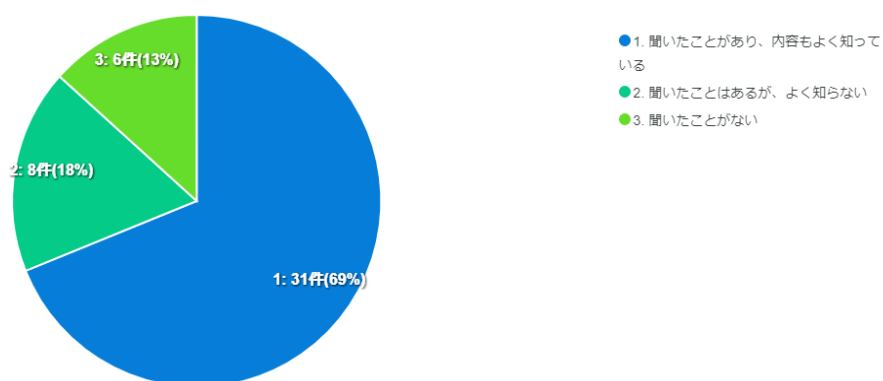
「知っている」が82%、「知らなかった」が18%となっています。



■ 通告しても通告者が特定されないように配慮されることを知っていたかどうか。
「知っている」が 73%、「知らなかった」が 27%となっています。

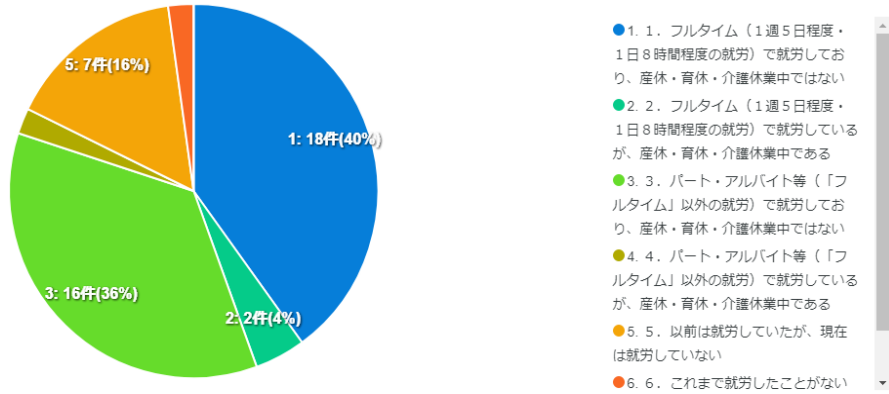


■ 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるかどうか。
聞いたことがあり、内容もよく知っている」が 69%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 18%、「聞いたことがない」が 13%となっています。



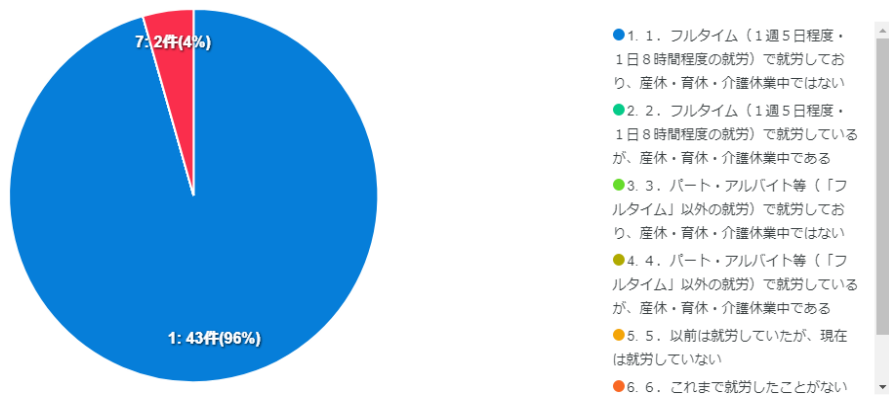
■保護者の就労状況について(母親)

「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 40%、「フルタイムで就労しており休業中である」が 4%、「パート・アルバイト等で就労しており、休業中ではない」が 36%、「パート・アルバイト等で就労しており、休業中である」が 2%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 16%、「これまで就労したことがない」が 2%となっています。



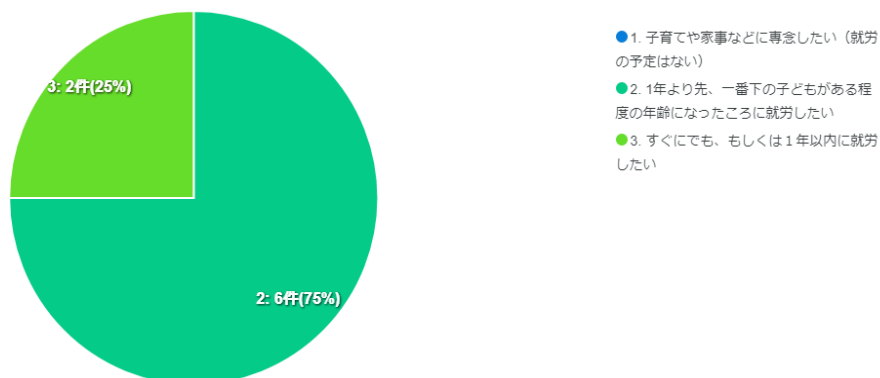
■保護者の就労状況について(父親)

「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 96%、「これまで就労したことがない」が 4%となっています。



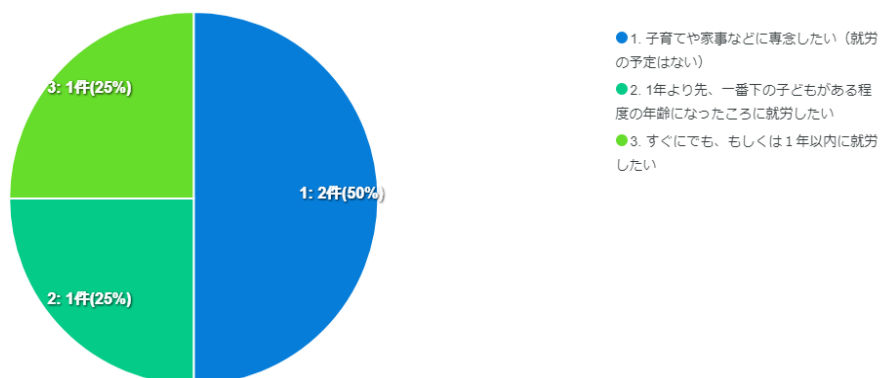
■就労希望の有無について(母親)

「1年より先、一番下の子どもがある程度の年齢になったところに就労したい」が75%、「すぐにも、もしくは1年以内に就労したい」が25%となっています。



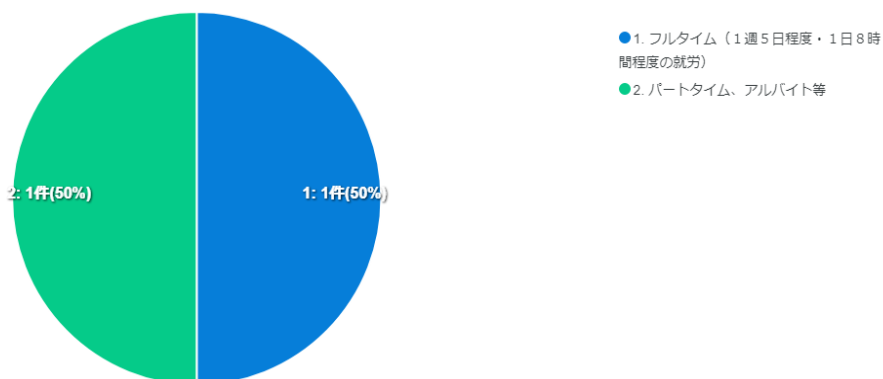
■フルタイムへの転換希望の有無について(母親)

「フルタイムへの転換希望はあるが、実現できる見込みはない」が29%、「パート・アルバイト等の就労を続けることを希望」が65%、「パート・アルバイト等をやめて子育てや家事に専念したい」が6%となっています。

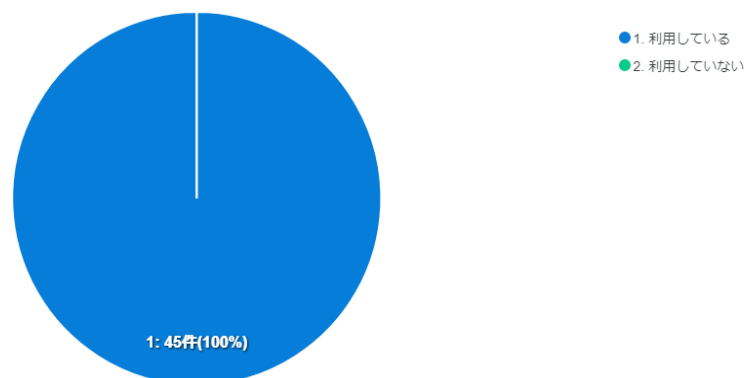


■希望する就労形態について(母親)

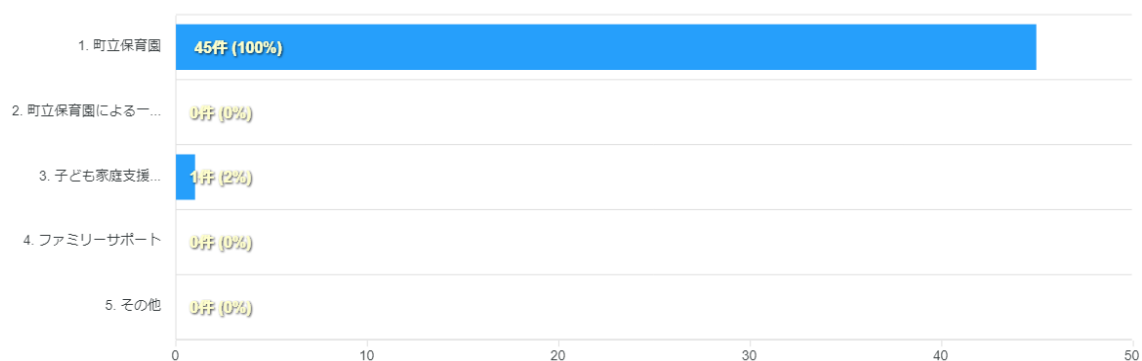
「フルタイム」が50%、「パート・アルバイト等」が50%



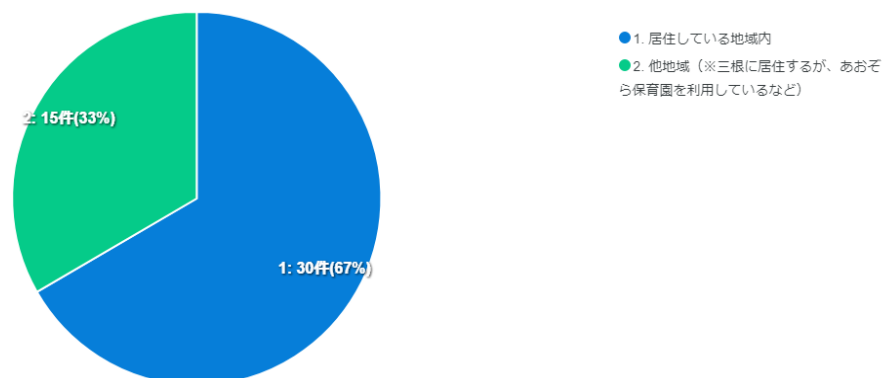
■保育所などの「定期的な保育事業」の利用について
「利用している」が 100%となっています。



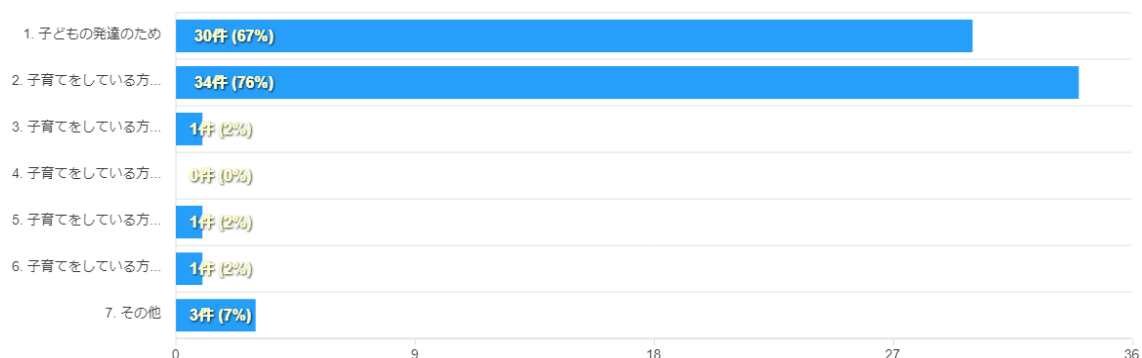
■利用している保育事業について、「定期的」に利用しているものすべて
「町立保育園」が 100%、「子ども家庭支援センター」が 2%となっています。



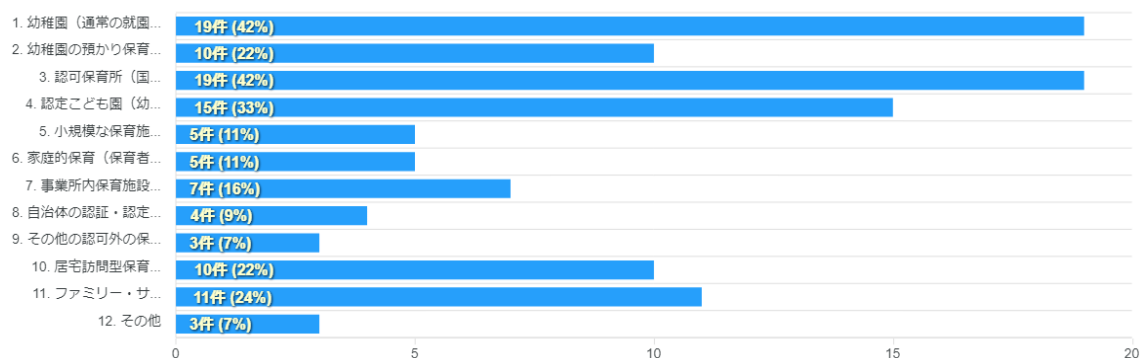
■現在、利用している保育事業の実施場所について
「居住している地域内」が 67%、「他地域」が 33%となっています。



■平日に定期的に保育事業を利用されている理由について、当てはまるものすべて「こどもの発達のため」が67%、「子育てをしている方が現在就労している」が76%、「子育てをしている方が就労予定がある/求職中である」が2%、「子育てをしている方が病気や障害がある」が2%、「子育てをしている方が学生である」が2%、「その他」が7%となっています。

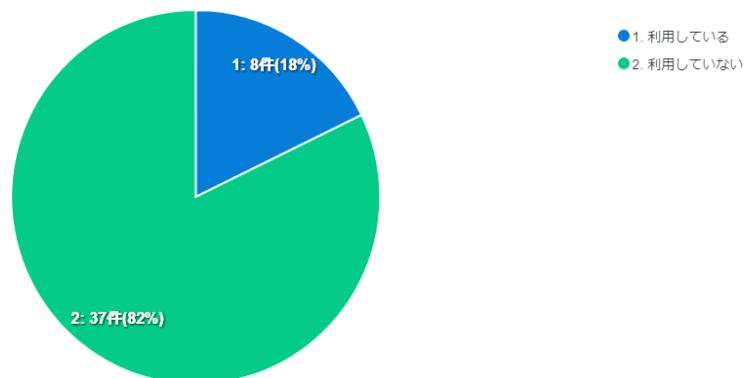


■平日の教育・保育の事業として「定期的に」利用したいと考える事業すべて(未実施を含む)「幼稚園」が42%、「幼稚園の預かり保育」が22%、「認可保育所」が42%、「認定こども園」が33%、「小規模な保育施設」が11%、「家庭的保育」が11%、「事業所内保育施設」が16%、「自治体の認証・認定保育施設」が9%、その他の認可外の保育施設が7%、「居宅訪問型保育」が22%、「ファミリー・サポート・センター」が24%、「その他」が7%となっています。



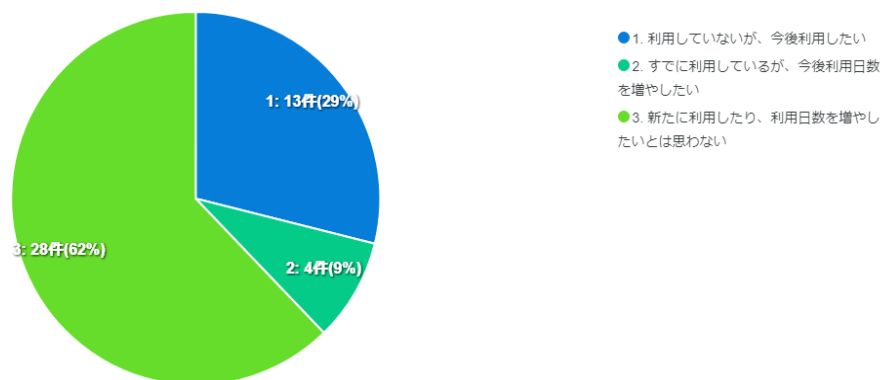
■地域子育て支援事業(こどもひろば)の利用について

「利用している」が18%、「利用していない」が82%となっています。



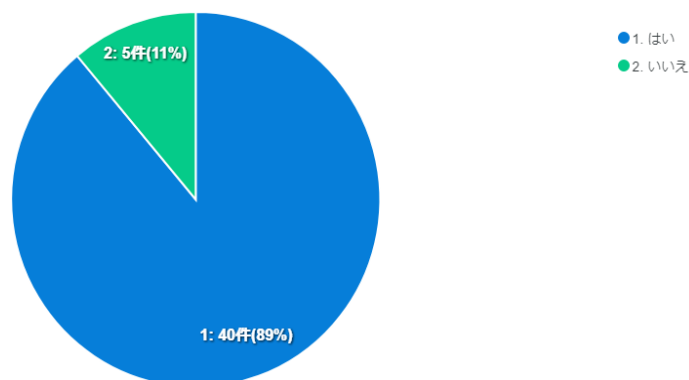
■地域子育て支援事業(こどもひろば)の今後の利用希望について

「利用していないが、今後利用したい」が29%、「すでに利用しているが、今後利用日数を増やしたい」が9%、「新たに利用したり、利用日数を増やしたいとは思わない」が62%となっています。

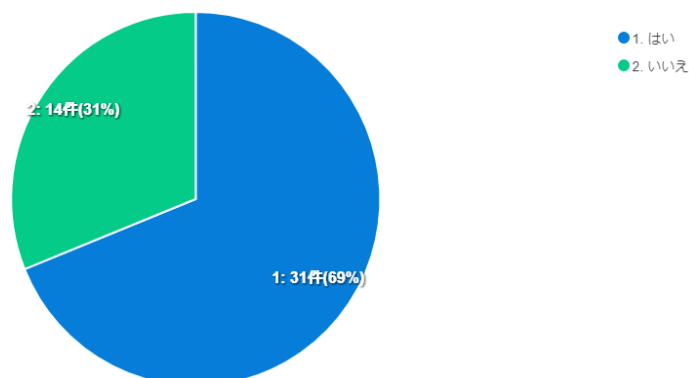


■「母親(父親)学級、両親学級、育児学級」について知っている(未実施含む)

「はい」が89%、「いいえ」が11%となっています。

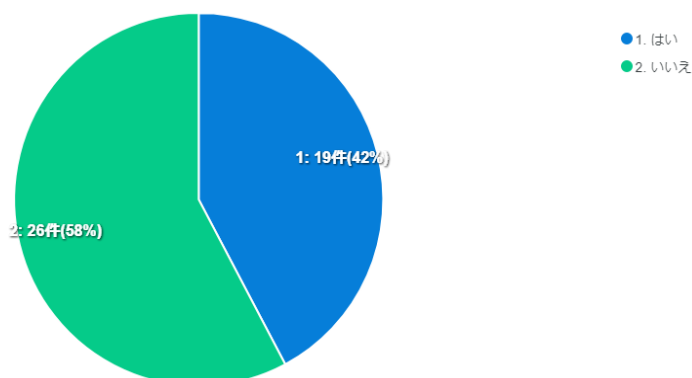


■「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」を利用したことがある（未実施含む）
「はい」が 69%、「いいえ」が 31%となっています。

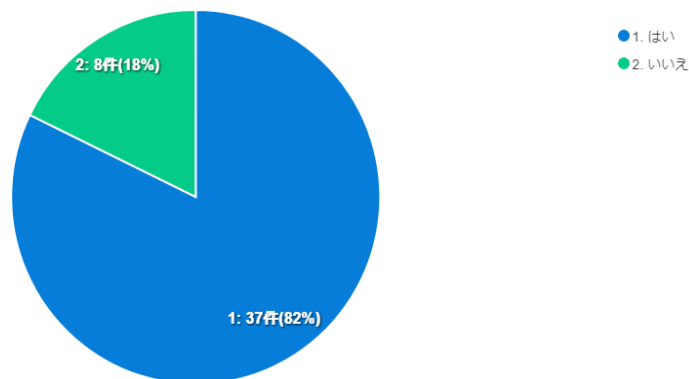


■下記事業で知っているもの、利用したことがあるもの、今後利用したいものについて（未実施含む）

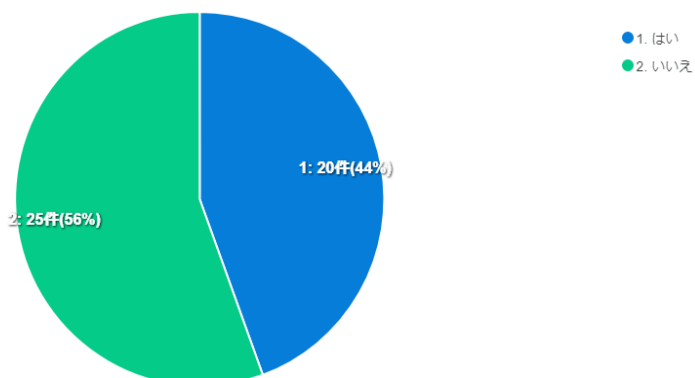
①「母親（父親）学級、両親学級、育児学級」を今後利用したい。
「はい」が 42%、「いいえ」が 58%となっています。



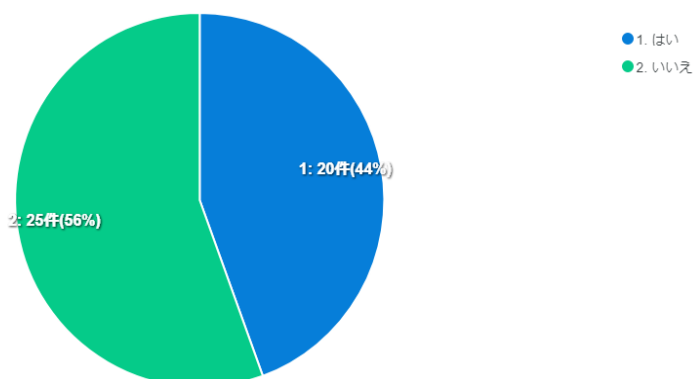
②「町役場（保健センター含む）の情報・相談事業」を知っている。
「はい」が 82%、「いいえ」が 18%となっています。



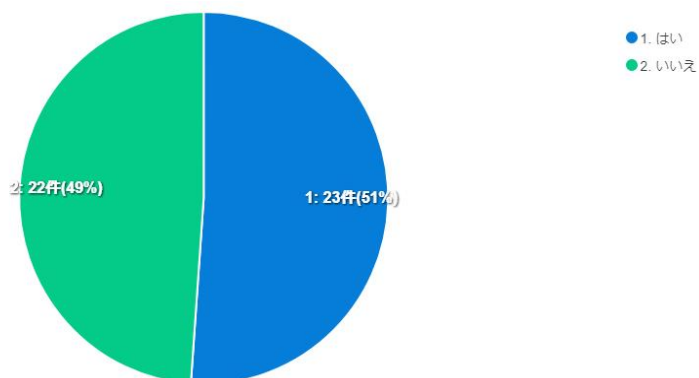
②「町役場(保健センター含む)の情報・相談事業」をこれまでに利用した。
「はい」が44%、「いいえ」が56%となっています。



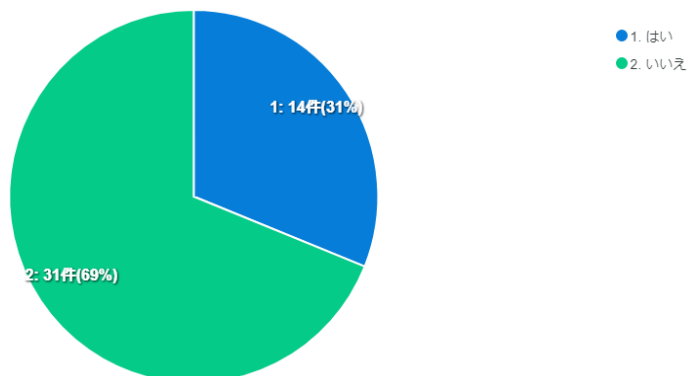
②「町役場(保健センター含む)の情報・相談事業」をこれまでに利用した。
「はい」が44%、「いいえ」が56%となっています。



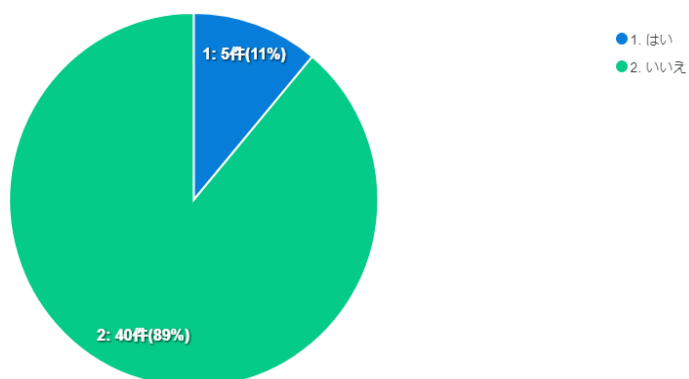
②「町役場(保健センター含む)の情報・相談事業」を今後利用したい。
「はい」が51%、「いいえ」が49%となっています。



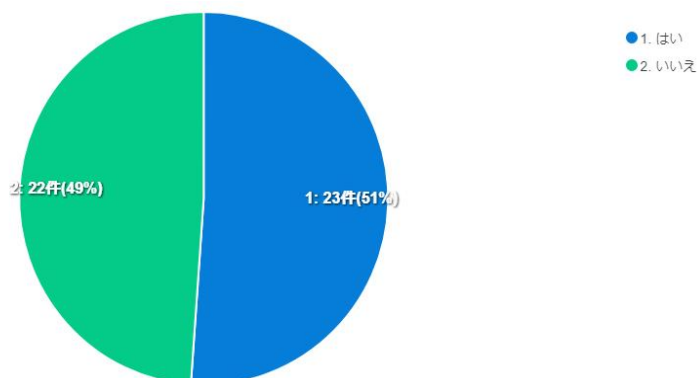
③「家庭教育に関する学級・講座」を知っている。
「はい」が 31%、「いいえ」が 69%となっています。



③「家庭教育に関する学級・講座」をこれまでに利用したことがある。
「はい」が 11%、「いいえ」が 89%となっています。

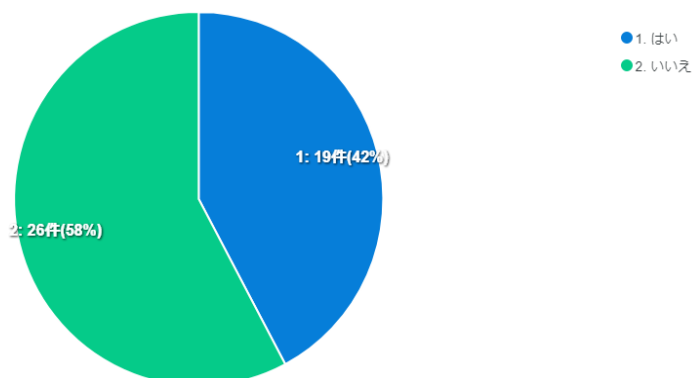


③「家庭教育に関する学級・講座」を今後利用したい。
「はい」が 51%、「いいえ」が 49%となっています。



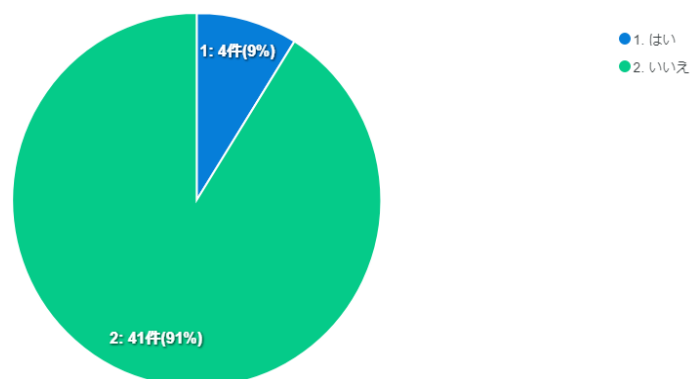
④「教育相談センター・教育相談室」を知っている。

「はい」が 42%、「いいえ」が 58%



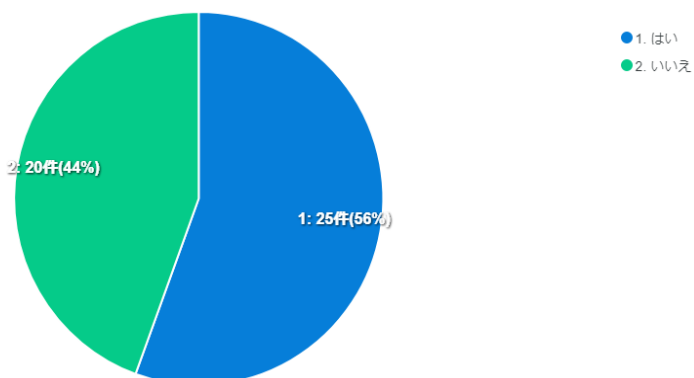
④「教育相談センター・教育相談室」を利用したことがある。

「はい」が 9%、「いいえ」が 91%となっています。



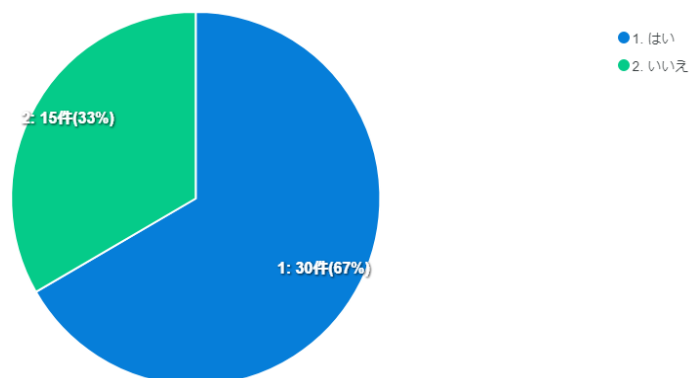
④「教育相談センター・教育相談室」今後利用したい。

「はい」が 56%、「いいえ」が 44%となっています。



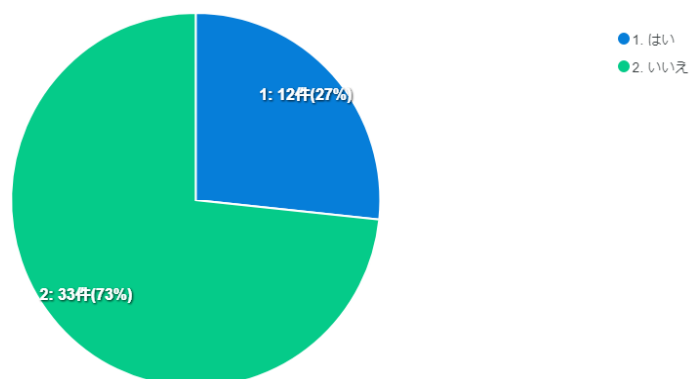
⑤「保育所の園庭・保育室等の開放(こどもひろば)」を知っている。

「はい」が 67%、「いいえ」が 33%



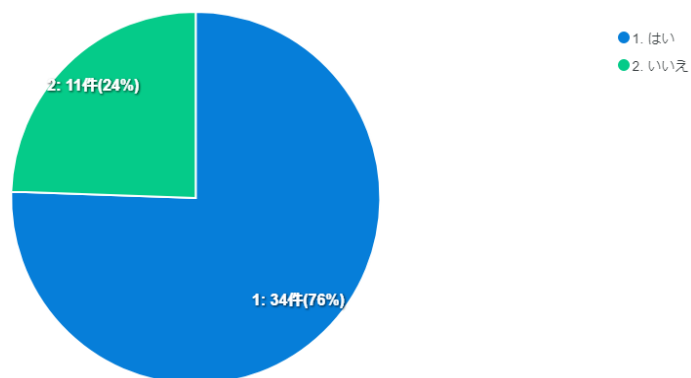
⑤「保育所の園庭・保育室等の開放(こどもひろば)」を利用したことがある。

「はい」が 12%、「いいえ」が 73%

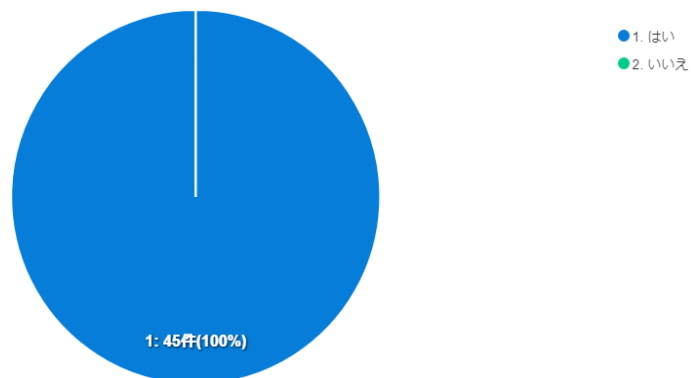


⑤「保育所の園庭・保育室等の開放(こどもひろば)」を今後利用したい。

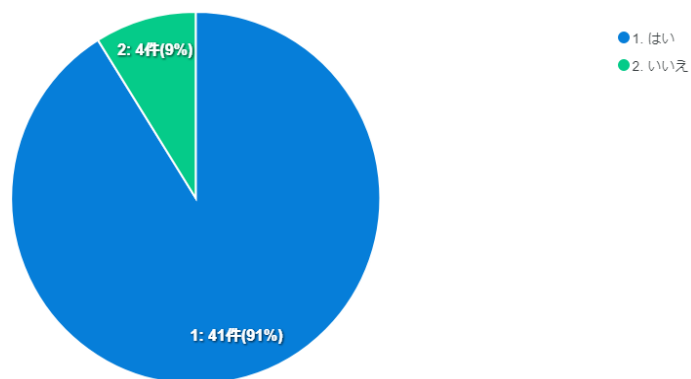
「はい」が 76%、「いいえ」が 24%



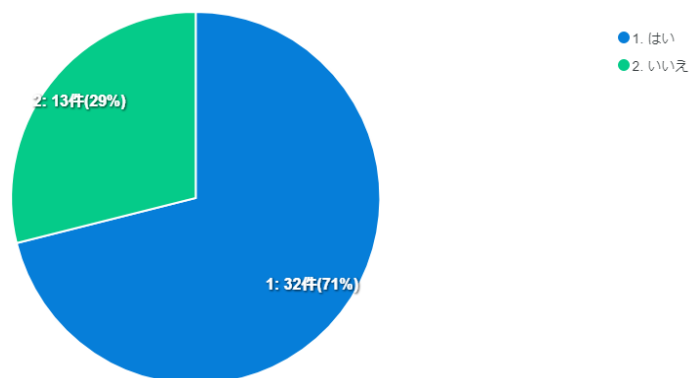
⑥「子ども家庭支援センター」を知っている。
「はい」が 100%となっています。



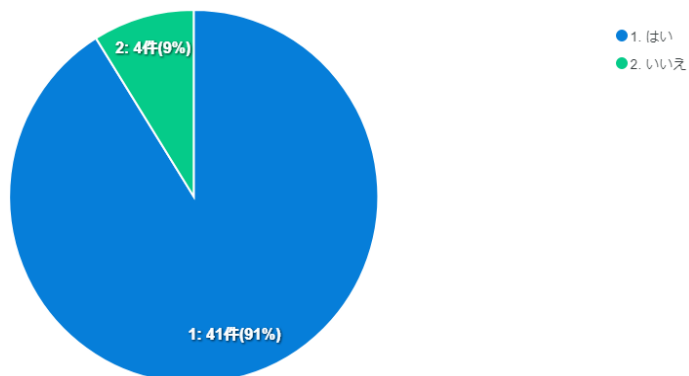
⑥「子ども家庭支援センター」をこれまでに利用したことがある。
「はい」が 91%、「いいえ」が 9%となっています。



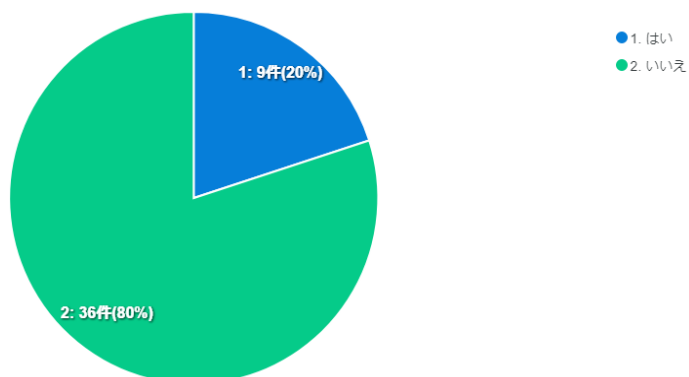
⑥「子ども家庭支援センター」を今後利用したい。
「はい」が 71%、「いいえ」が 29%となっています。



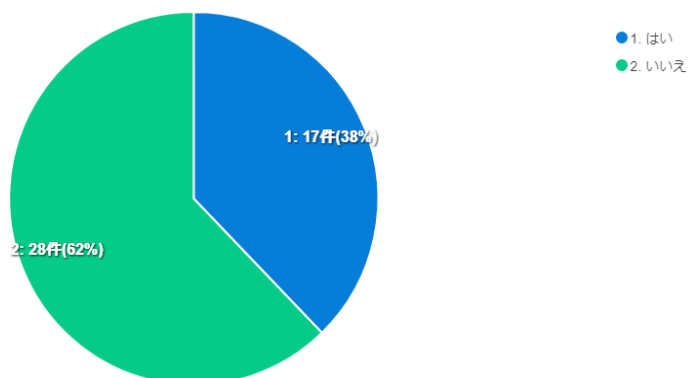
⑦「ファミリー・サポート・センター」を知っている。
「はい」が 91%、「いいえ」が 9%となっています。



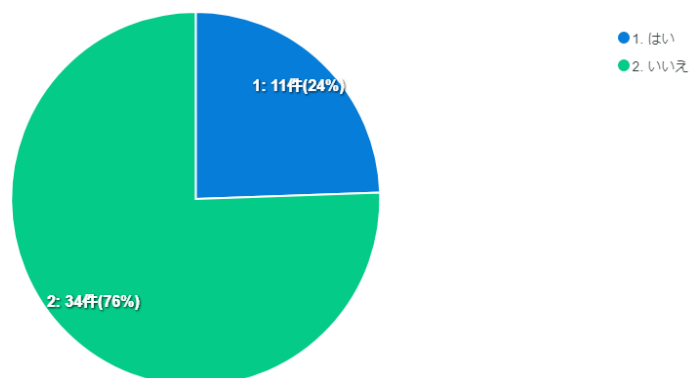
⑦「ファミリー・サポート・センター」をこれまでに利用したことがある。
「はい」が 20%、「いいえ」が 80%となっています。



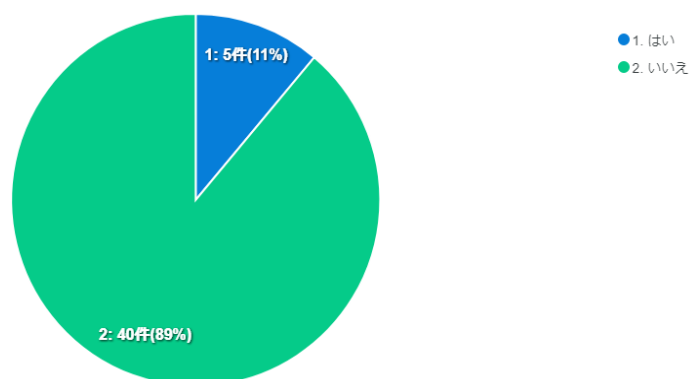
⑦「ファミリー・サポート・センター」をこれまでに利用したことがある。
「はい」が 38%、「いいえ」が 62%となっています。



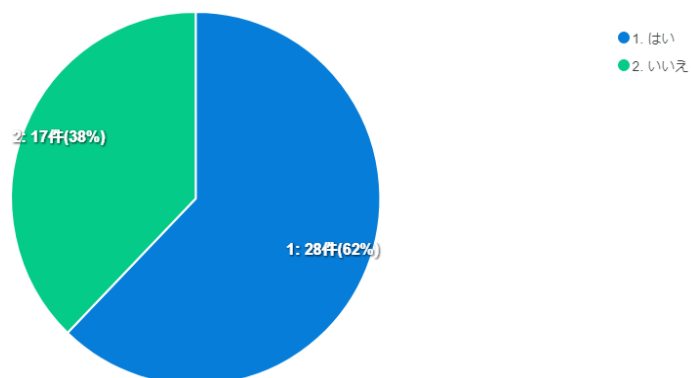
⑧「子育て支援情報誌」を知っている。
「はい」が 24%、「いいえ」が 76%となっています。



⑧「子育て支援情報誌」をこれまでに利用したことがある。
「はい」が 11%、「いいえ」が 89%となっています。

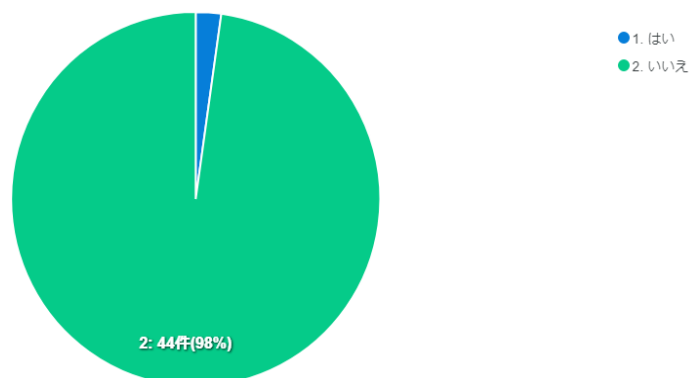


⑧「子育て支援情報誌」を今後利用したい。
「はい」が 62%、「いいえ」が 38%となっています。



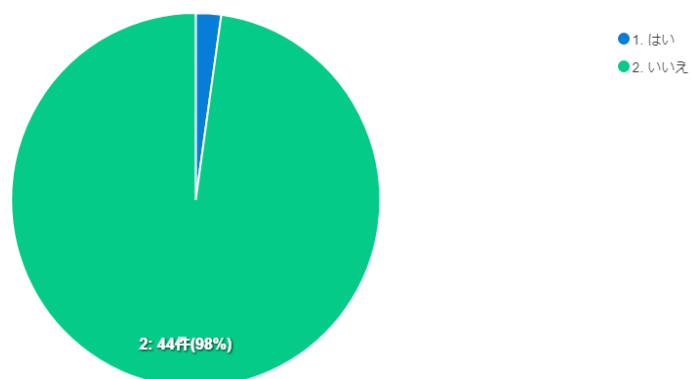
⑨「その他」を知っている。

「はい」が 2%、「いいえ」が 98%となっています。



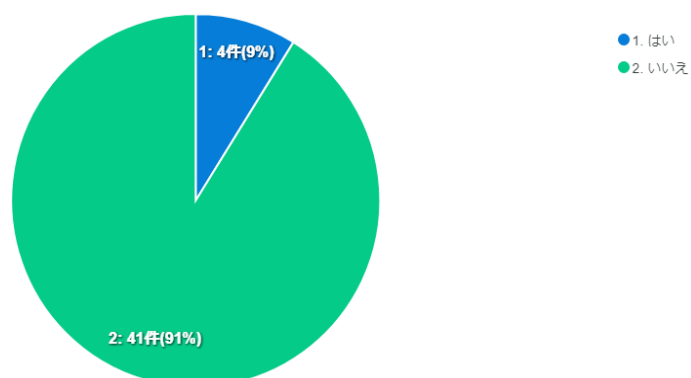
⑨「その他」を利用したことがある。

「はい」が 2%、「いいえ」が 98%となっています。



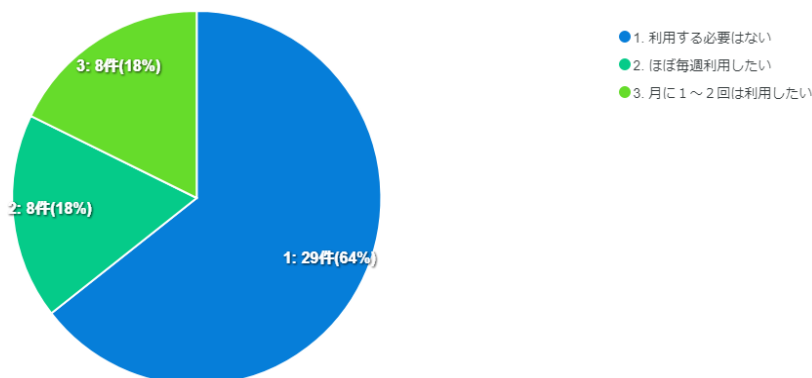
⑨「その他」を今後利用したい。

「はい」が 9%、「いいえ」が 91%となっています。

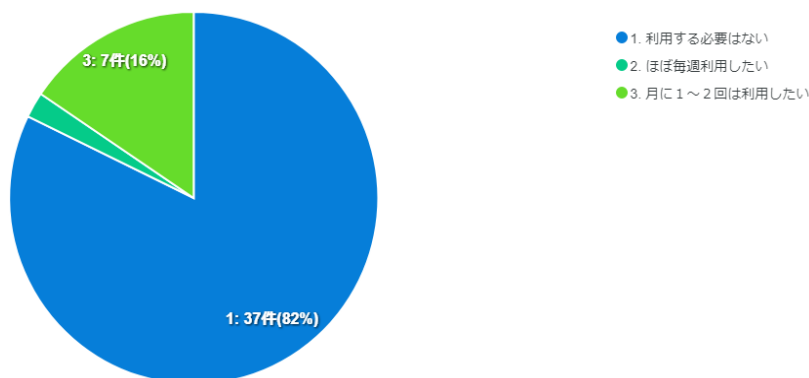


■土・日・祝日に定期的な保育事業の利用希望の有無

①土曜日:「利用する必要はない」が64%、「ほぼ毎週利用したい」が18%、「月に1~2回は利用したい」が18%となっています。

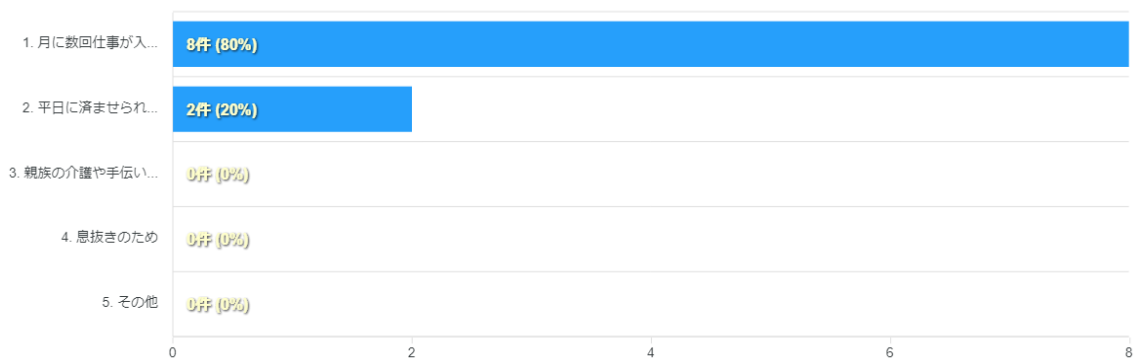


②日曜・祝日:「利用する必要はない」が82%、「ほぼ毎週利用したい」が2%、「月に1~2回は利用したい」が16%となっています。



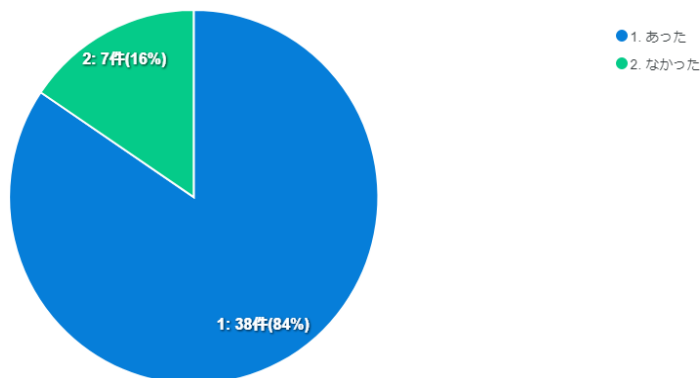
「月に1~2回は利用したい」を選んだ理由について

「月に数回仕事が入るため」が80%、「平日に済ませられない用事をまとめて済ませるため」が20%、となっています。



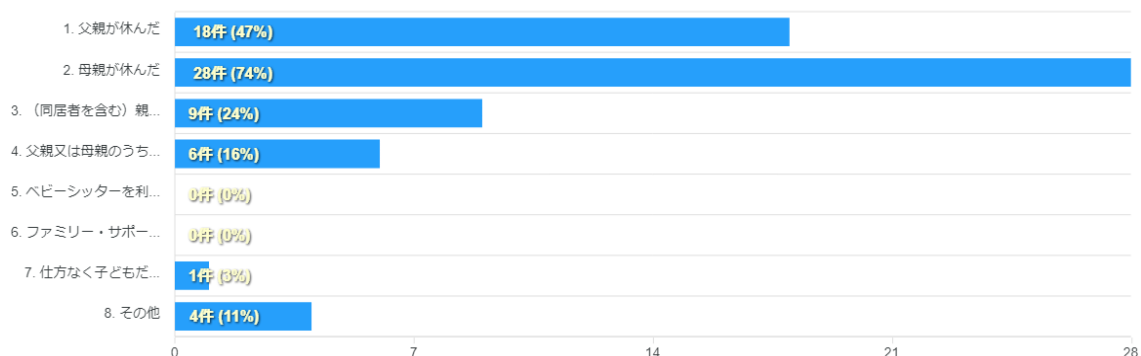
■子どもが病気やケガで保育園に行けなかったことがあるかどうか。

「あった」が84%、「なかった」が16%



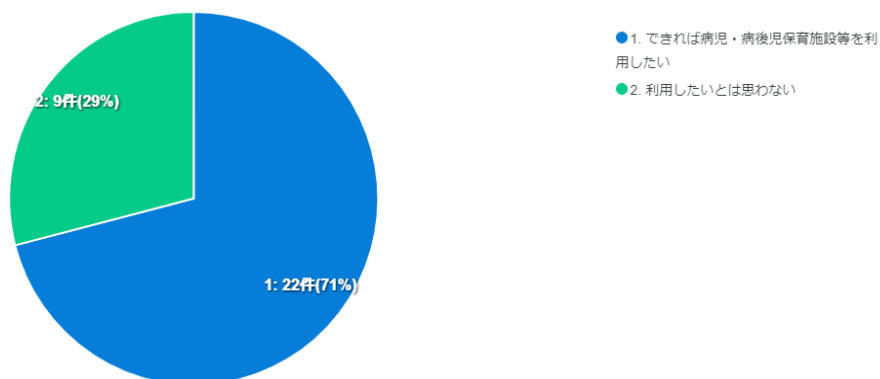
■子どもが病気やケガで休んだ時の対処方法について(当てはまるものすべて)

「父親が休んだ」が47%、「母親が休んだ」が74%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が24%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が16%、「仕方なく子どもだけで留守番させた」が3%、「その他」が11%となっています。



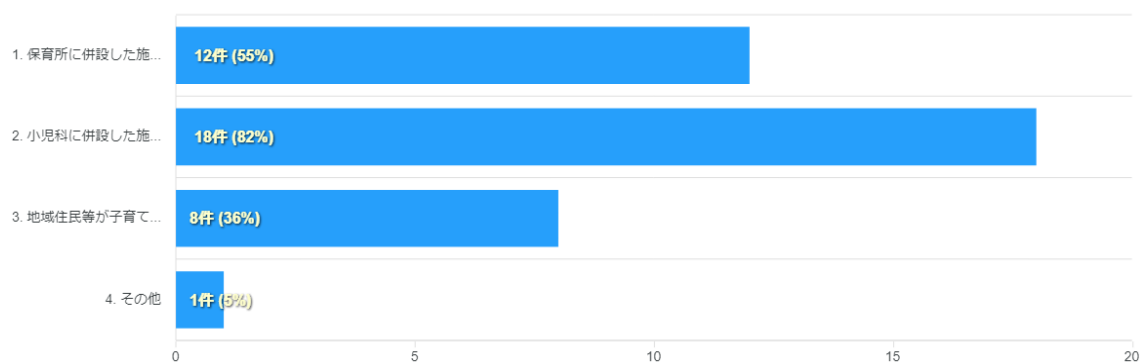
■できれば病児・病後児のための保育施設等を利用したいと思うか(現在、八丈町では事業なし)

「できれば病児・病後児保育施設等を利用したい」が71%、「利用したいとは思わない」が29%となっています。



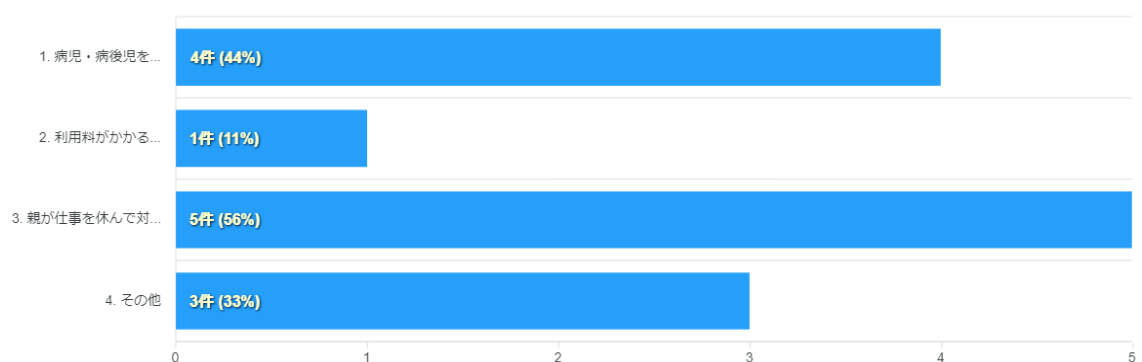
「利用したい」場合、どのような形態がよいか

「保育所に併設した施設で子どもを保育する事業」が 55%、「小児科に併設した施設で子どもを保育する事業」が 82%、「地域住民等が子育て家庭等の身近な場所で保育する事業」が 36%、「その他」が 5%となっています。



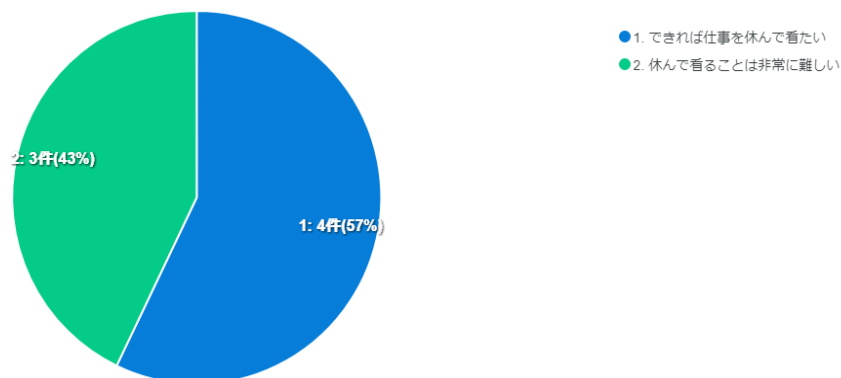
「利用したいと思わない」を選択した理由について

「病児・病後児を他人に看てもらうのは不安」が 44%、「利用料がかかるなら利用したくない」が 11%、「親が仕事を休んで対応する」が 56%、「その他」が 33%となっています。



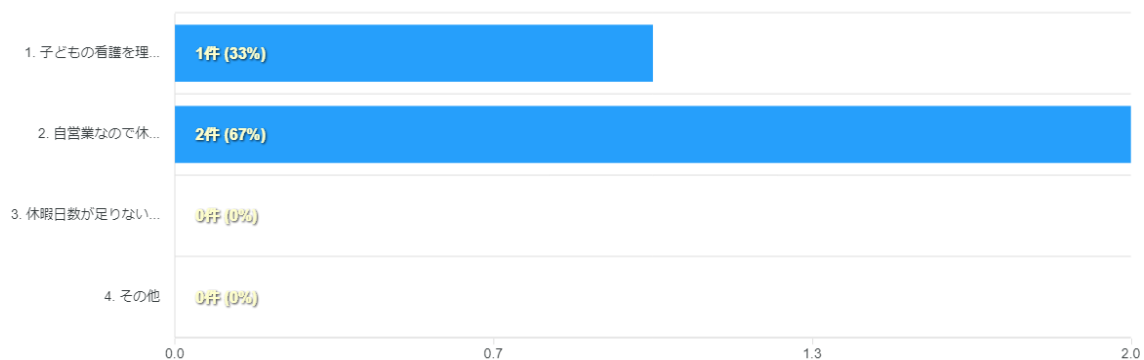
■できれば父母のいずれかが仕事を休んで子どもを看たいか。

「できれば仕事を休んで看たい」が 57%、「休んで看ることは非常に難しい」が 43%となっています。



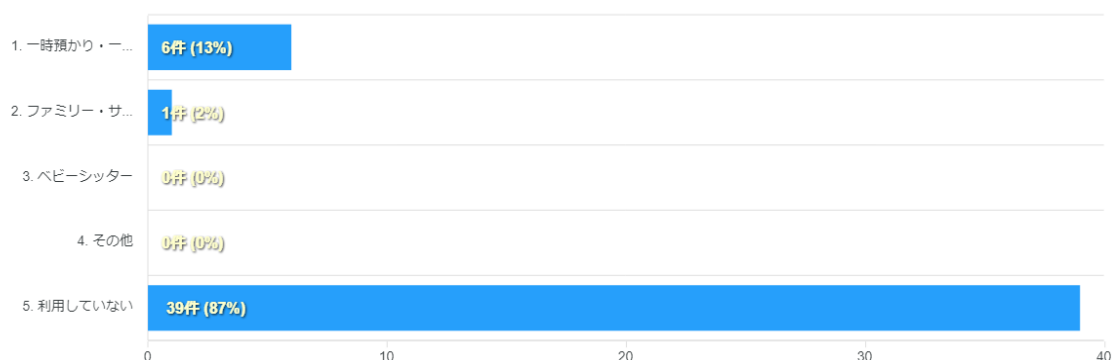
■仕事を休んで看ることは難しいと思う理由について

「子どもの看護を理由に休みがとれない」が 33%、「自営業なので休めない」が 67%となっています。



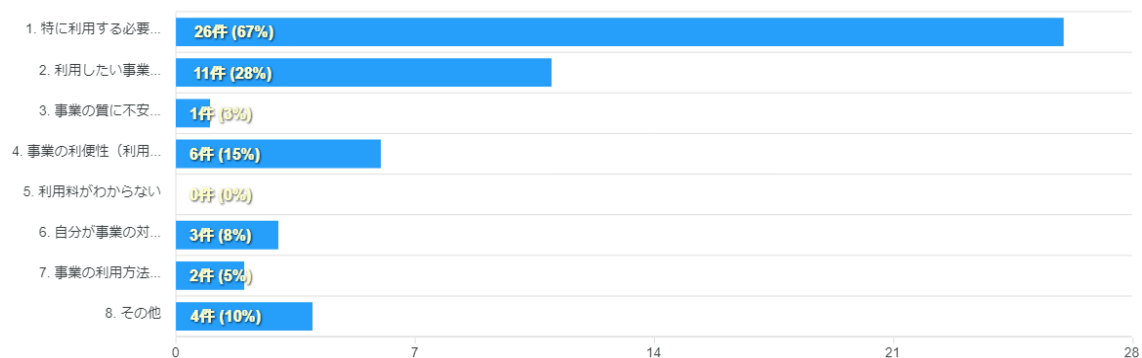
■ 日中の定期的な保育や病気のため以外に、私用、親の通院、不定期の就労等の目的で不定期に利用している事業について

「一時預かり・一時保育」が 13%、「ファミリー・サポート・センター」が 2%、「利用していない」が 87%となっています。



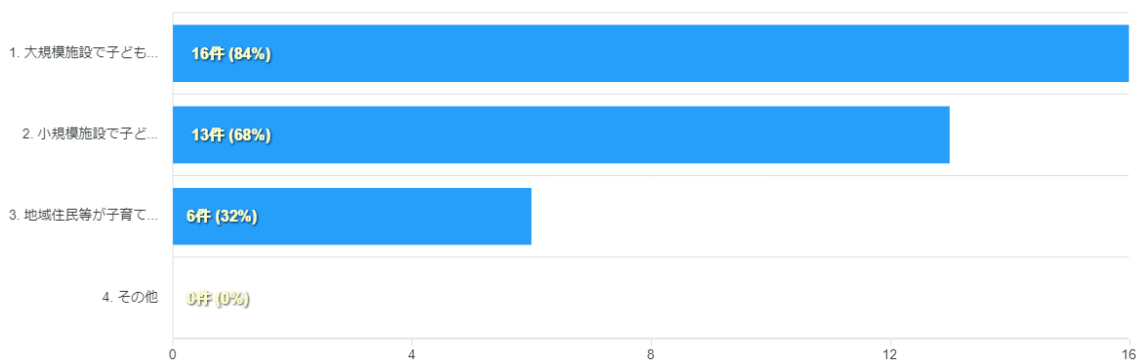
■ 「利用していない」理由について

「特に利用する必要がない」が 67%、「利用したい事業が地域にない」が 28%、「事業の質に不安がある」が 3%、「事業の利便性がよくない」が 15%、「自分が事業の対象者になるのかわからない」が 8%、事業の利用方法がわからないが 5%、「その他」が 10%となっています。



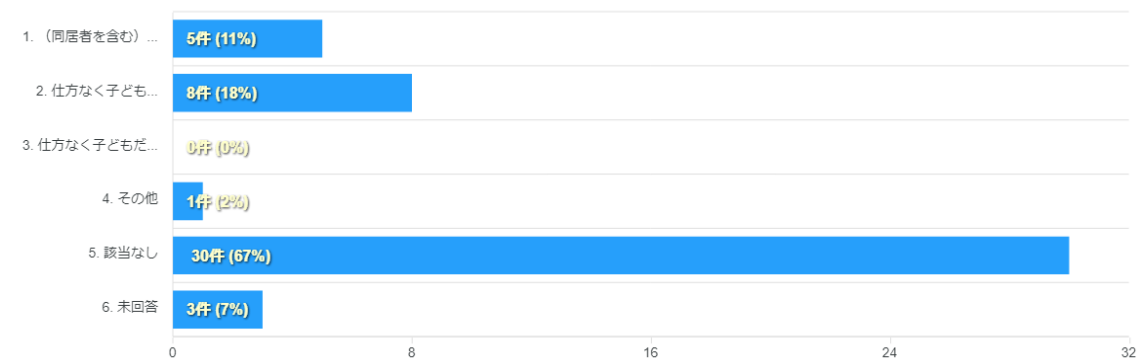
■望ましいと思う事業形態について、当てはまるものすべて

「大規模施設で子どもを保育する事業(例:保育所等)」が84%、「小規模施設で子どもを保育する事業(例:子ども家庭支援センター等)」が68%、「地域住民等が子育て家庭等の近くの場所で保育する事業(例:ファミリー・サポート・センター等)」が32%となっています。



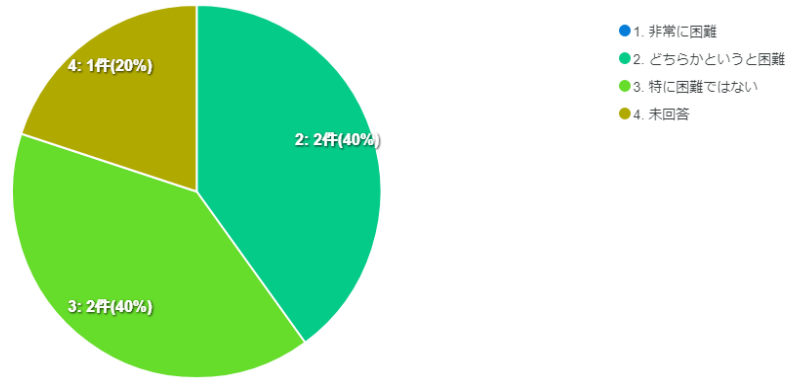
■この1年間に、保護者の用事(冠婚葬祭、保護者・家族の病気など)により、子どもを泊りがけで家族以外にみてもらわなければならないことがあったか。

「(同居者を含む)親族・知人にみてもらった」が11%、「仕方なく子どもを同行させた」が18%、「その他」が2%、「該当なし」が67%、「未回答」が7%となっています。



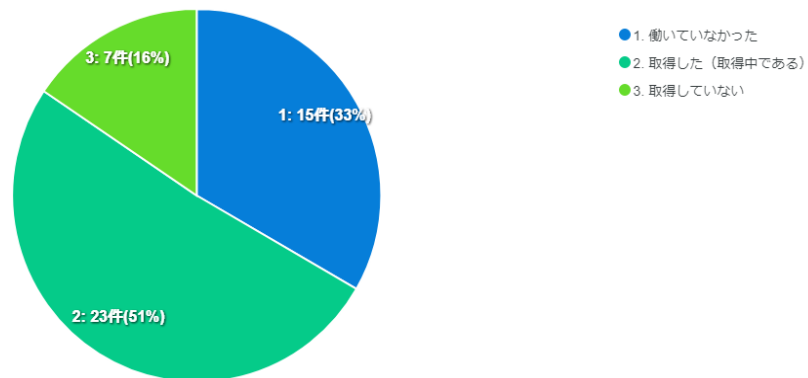
■ その場合の困難の度合いについて

「どちらかという困難」が 40%、「特に困難ではない」が 40%、「未回答」が 20%となっています。



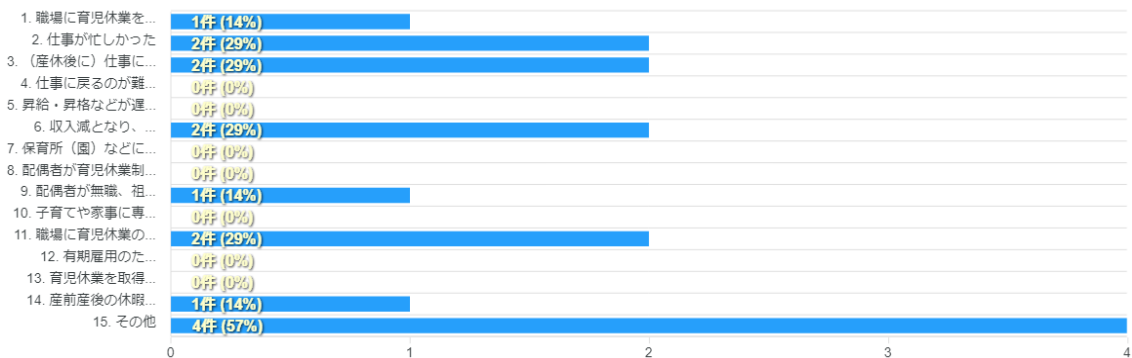
■ 子どもが生まれたとき父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得したか(母親)

「働いていなかった」が 33%、「取得した(取得中である)」が 51%、「取得していない」が 16%となっています。



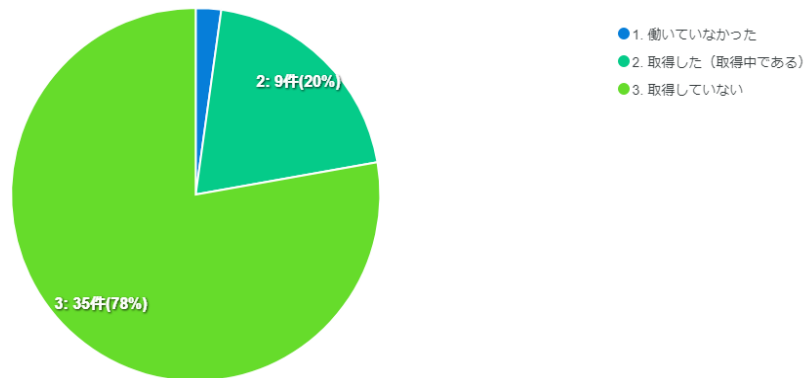
■ 育児休業を取得していない理由についてすべて(母親)

「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 14%、「仕事が忙しかった」が 29%、「(産休後に)仕事に早く復帰したかった」が 29%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が 29%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 14%、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が 29%、「産前産後の休暇(産前6週間、産後8週間)を取得できることを知らず、退職した」が 14%、「その他」が 57%となっています。



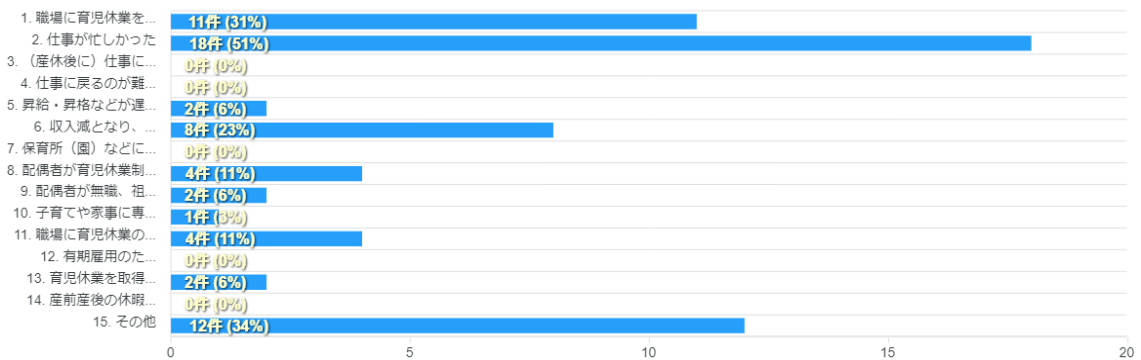
■ 子どもが生まれたとき父母のいずれかもしくは双方が育児休業を取得したか(父親)

「働いていなかった」が 2%、「取得した(取得中である)」が 20%、「取得していない」が 78%となっています。



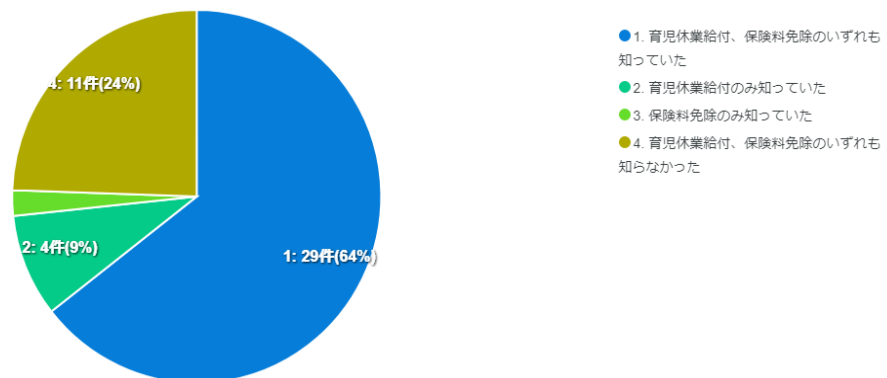
■ 育児休業を取得していない理由についてすべて(父親)

「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」が 31%、「仕事が忙しかった」が 51%、「昇給・昇格等が遅れそうだった」が 6%、「収入減となり、経済的に苦しくなる」が 23%、「配偶者が育児休業制度を利用した」が 11%、「配偶者が無職、祖父母等の親族にみてもらえるなど、制度を利用する必要がなかった」が 6%、「子育てや家事に専念するために退職した」が 3%、「職場に育児休業の制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が 11%、「育児休業を取得できることを知らなかった」が 6%、「その他」が 34%



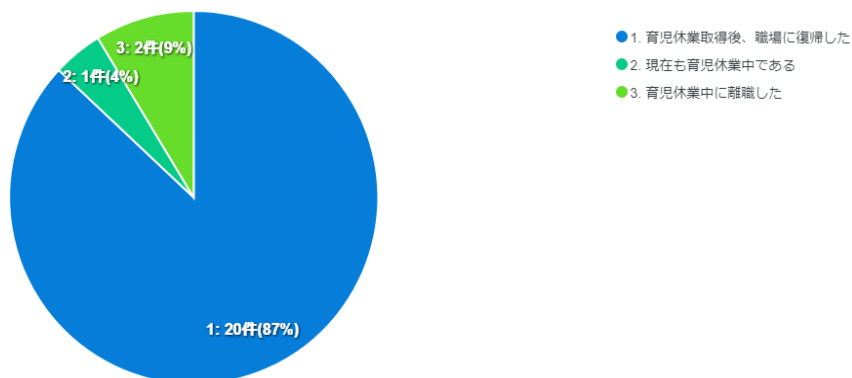
■ 子どもが原則1歳(保育所における保育の実施が行われないなど一定の要件を満たす場合は2歳)になるまで育児休業給付が支給される仕組み、子どもが満3歳になるまえの育児休業等(法定の育児休業及び企業が法定を上回る期間設けた育児休業に準ずる措置)期間について健康保険及び厚生年金保険の保険料が免除になる仕組みを知っているか。

「育児休業給付、保険料免除のいずれも知っていた」が 64%、「育児休業給付のみ知っていた」が 9%、「保険料免除のみ知っていた」が 3%、「育児休業給付、保険料免除のいずれも知らなかった」が 24%となっています。

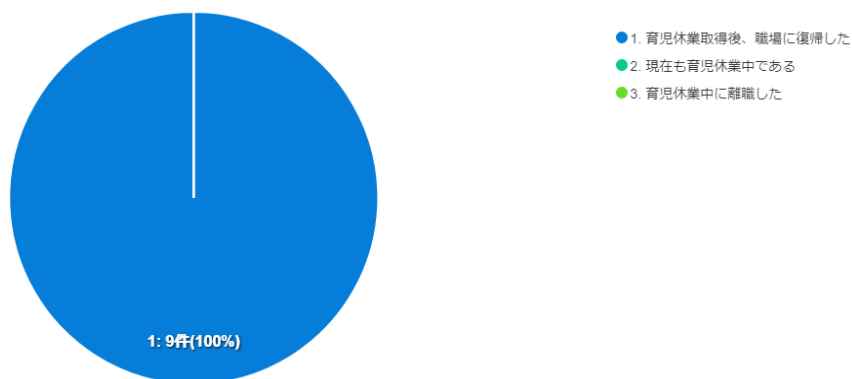


■育児休業後に職場復帰したか

○母親：「育児休業後、職場に復帰した」が 87%、「現在も育児休業中である」が 4%、「育児休業中に離職した」が 9%となっています。

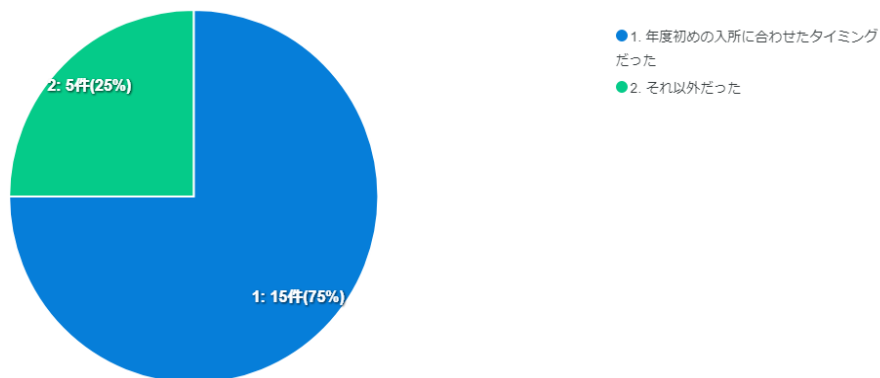


○父親：「育児休業後、職場に復帰した」が 100%となっています。

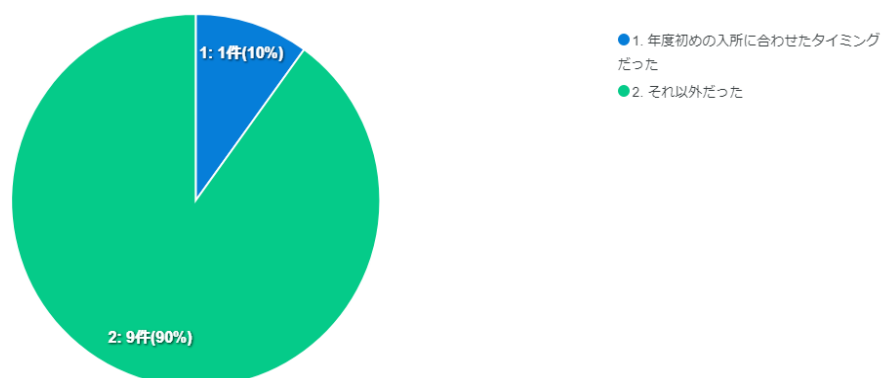


■育児休業から復帰したのは、年度初めの保育園入所に合わせたタイミングか否か

○母親：「年度初めの入所に合わせたタイミング」が 75%、「それ以外」が 25%となっています。

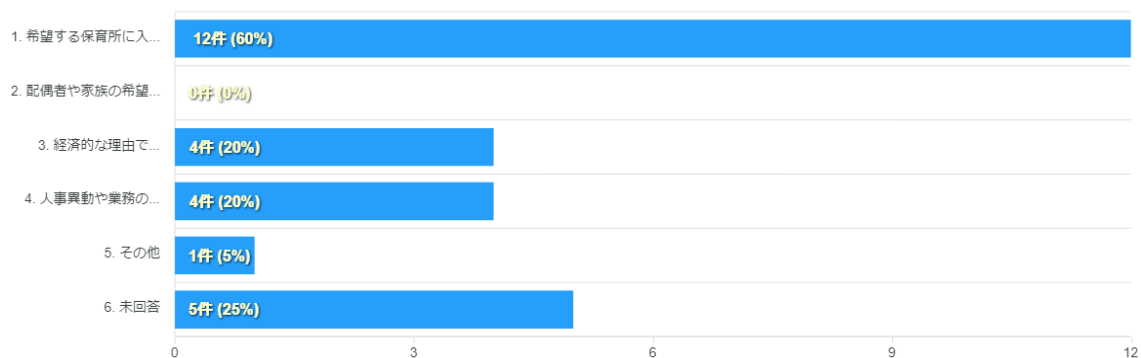


○父親：「年度初めの入所に合わせたタイミング」が 10%、「それ以外」が 90%となっています。

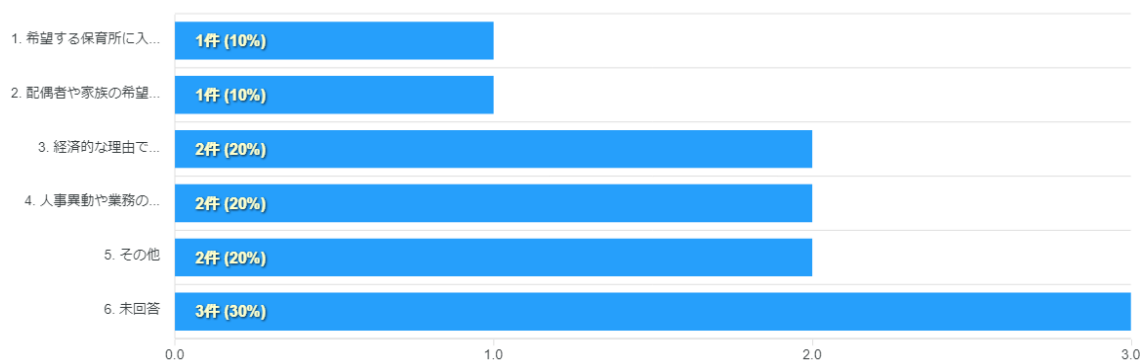


■希望の時期より早く職場復帰した理由について

○母親：「希望する保育所に入るため」が 60%、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 20%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 20%、「その他」が 5%、「未回答」が 25%となっています。

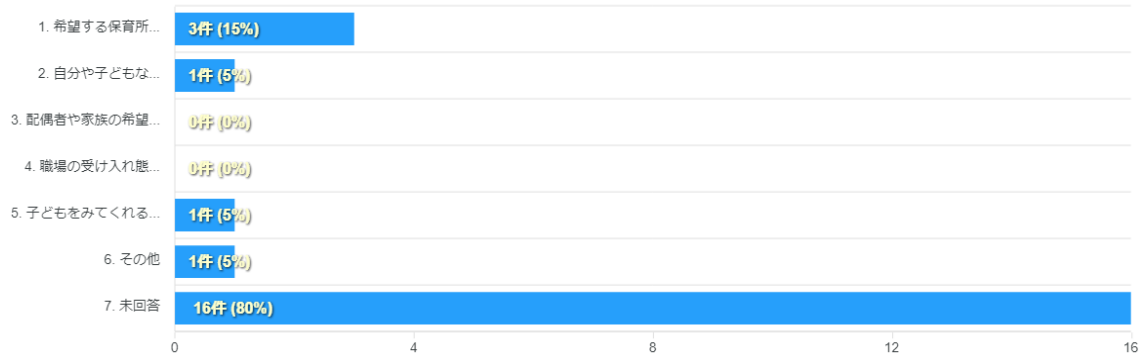


○父親：「希望する保育所に入るため」が 10%、「配偶者や家族の希望があったため」が 10%、「経済的な理由で早く復帰する必要がある」が 20%、「人事異動や業務の節目の時期に合わせるため」が 20%、「その他」が 20%、「未回答」が 30%となっています。

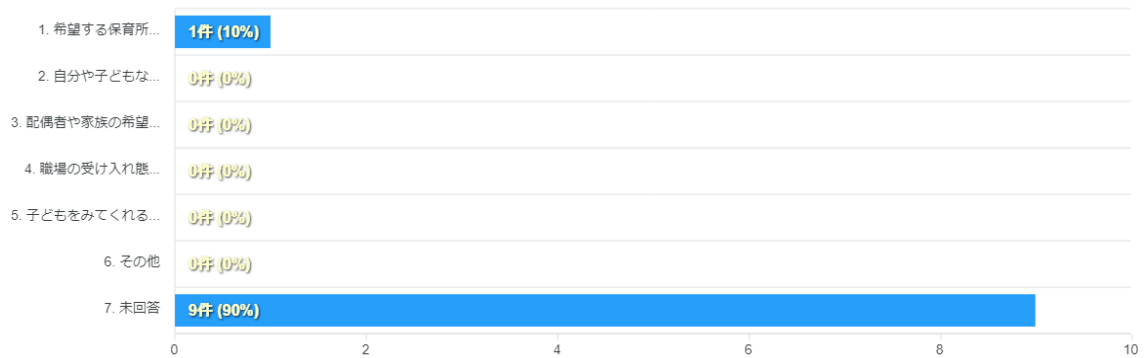


■希望の時期より遅く職場復帰した理由について

○母親：「希望する保育所に入れなかったため」が15%、「自分や子どもなどの体調が思わしくなかったため」が5%、「子どもをみてくれる人がいなかったため」が5%、「その他」が5%、「未回答」が80%となっています。

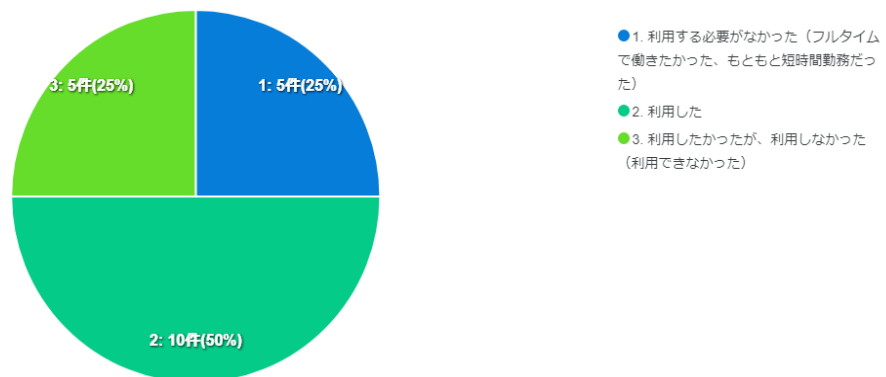


○父親：「希望する保育所に入れなかったため」が10%、「未回答」が90%となっています。



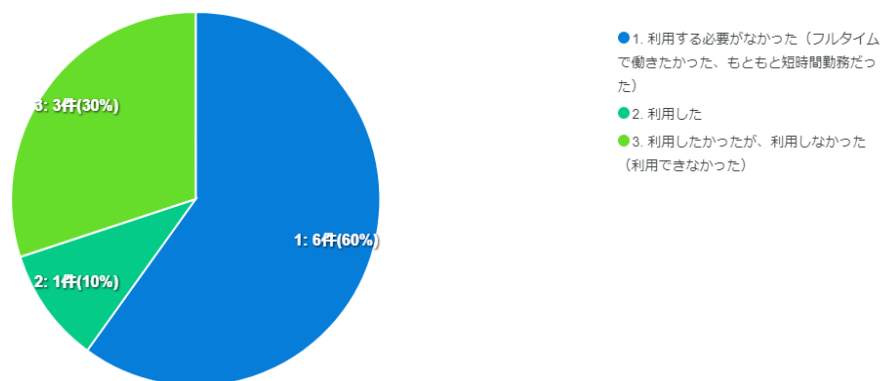
■育児休業からの職場復帰時には、短時間勤務制度を利用したか

○母親：「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」が25%、「利用した」が50%、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が25%となっています。



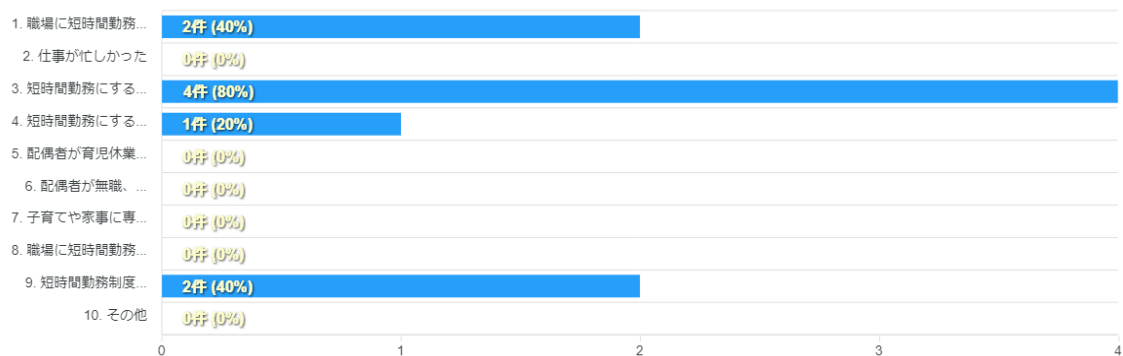
○父親

「利用する必要がなかった(フルタイムで働きたかった、もともと短時間勤務だった)」が 60%、「利用した」が 10%、「利用したかったが、利用しなかった(利用できなかった)」が 30%となっています。

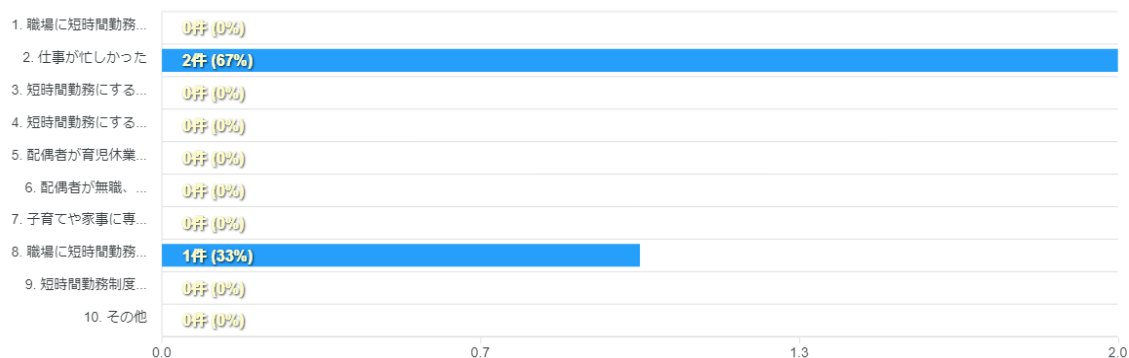


■短時間勤務制度を利用しなかった(利用できなかった)理由について

○母親:「職場に短時間勤務制度を取りにくい雰囲気があった」が 40%、「短時間勤務にすると給与が減額される」が 80%、「短時間勤務にすると保育所の入所申請の優先順位が下がる」が 20%、「短時間勤務制度を利用できることを知らなかった」が 40%

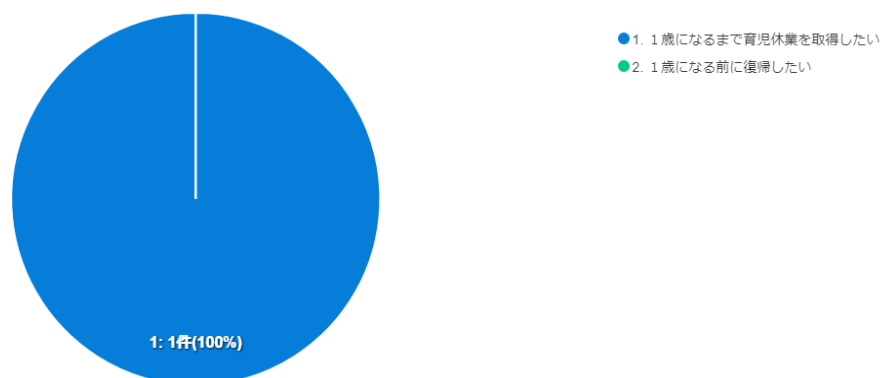


○父親：「仕事が忙しかった」が 67%、「職場に短時間勤務制度がなかった(就業規則に定めがなかった)」が 33%となっています。



■子どもが1歳になったときに必ず利用できる事業があれば、1歳になるまで育児休業を取得するか。または、預けられる事業があっても1歳になる前に復帰するか。

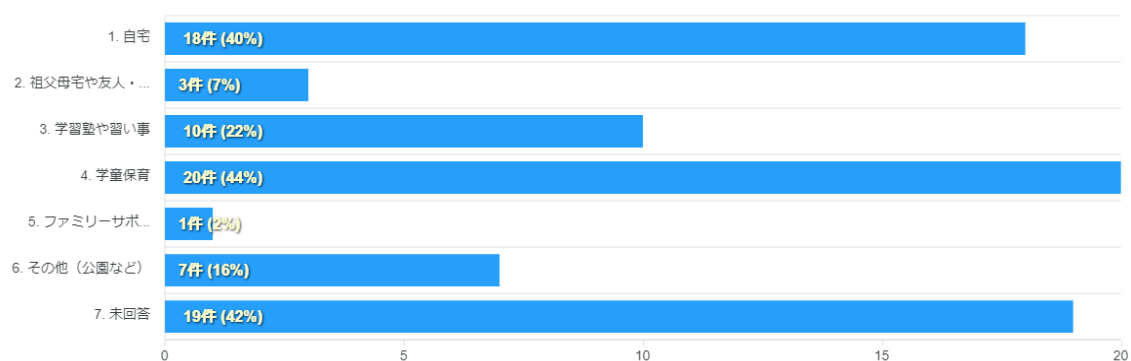
○母親：「1歳になるまで育児休業を取得したい」が 100%となっています。



○父親(※未回答 100%のため記載なし)

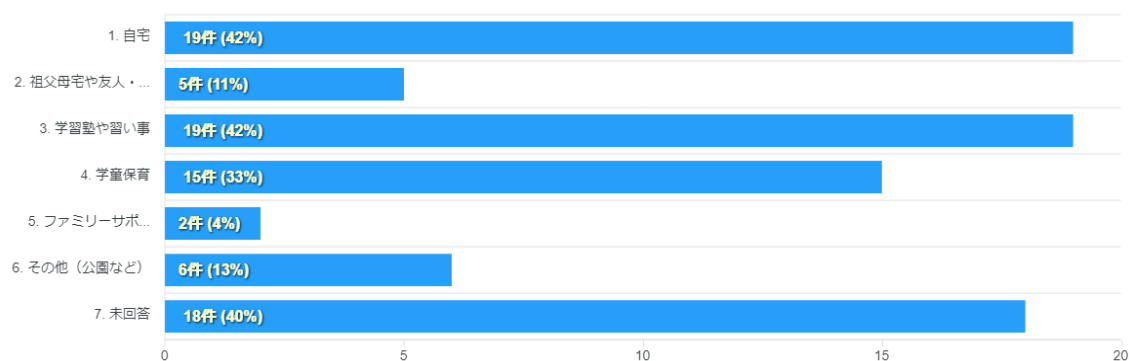
■子どもが、小学校(1～3年生)のうち放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

「自宅」が40%、「祖父母宅や友人・知人宅」が7%、「学習塾や習い事」が22%、「学童保育」が44%、「ファミリー・サポート・センター」が2%、「その他(公園など)」が16%、「未回答」が42%となっています。



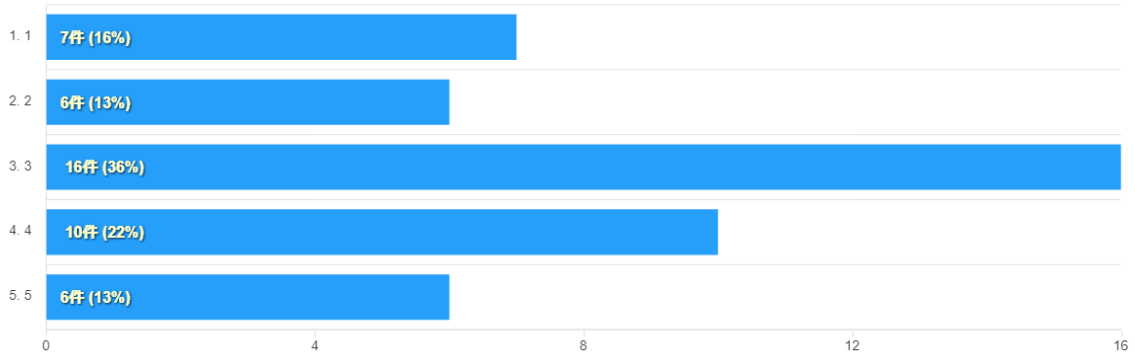
■子どもが、小学校(4～6年生)になったら放課後(平日の小学校終了後)の時間をどのような場所で過ごさせたいと思いますか。

「自宅」が42%、「祖父母や友人・知人宅」が11%、「学習塾や習い事」が42%、「学童保育」が33%、「ファミリー・サポート・センター」が4%、「その他(公園など)」が13%、「未回答」が40%となっています。



■八丈町における子育て支援の満足度について5段階評価でどこか。

「1」16%、「2」13%「3」36%「4」22%「5」13%



■子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいか(自由意見)

1	<p>希望する日時に子どもを預けられる場所がほしい。(現状、保育園や子ども家庭支援センターでは預ける枠、人数が少なすぎて希望する日に子どもを預ける事ができない。支援センターに緊急枠があるのはありがたい。)</p> <p>島民のお悩み相談や町への質問を誰もが見えるように閲覧スペースを設けて欲しい。(インターネット上で)その質問に対する回答も同様に誰もが閲覧できるシステムをつくっていただきたい。</p>
2	<p>行政担当者が移住者かつ現役で子育て世代だと、サポートの対応が変わってくると思う。町として他の地域よりも秀でていいる教育コンセプト(シュタイナー、バカロレア、イエナなど)を持った上での種々のサポートが欲しい。現状は保育士や行政担当者の個人的裁量が大きく、マイナスな差を感じる時がある。上述したコンセプトがあると、全てはそこへ回帰し、修正がかけやすくなると思う。</p>
3	<p>八丈での子育て情報を網羅した冊子があれば良いと思う。(保育園、小学校生活、習い事、公園、子が参加できるイベント年間予定、預け先、医療情報等)</p>
4	<p>病児保育</p>
5	<p>相談先</p>
6	<p>保育園が満員で入れないので、保育士や保育園を増やしてほしい。</p>
7	<p>やはり金銭面でのサポートが一番助かる。</p> <p>検診時に頂いた薬局の商品券は大変助かった。逆に納得いかないのは、育児手当が3歳になった途端に減額されるのに、保育料は3歳になった時点では無料にならず3歳児クラスの開始年度から無料になるところ。</p> <p>保育園についても、潜在保育士は居るのに保育園では働かないところを考えると保育士の待遇改善が求められる。八丈は子連れ移住者も多く、自営業も多いので保育園は必須。</p>

8	これからも幅広い知識やケーススタディを活用していただき、点と点を結ぶサポートをしていただきたいです。
9	睡眠時間の確保
10	0歳から預けられる施設 子連れ ok な美容室 エステ
11	病児保育、支援センターで気軽な相談(現在入っても事務所から出てこない、一時預かり優先。電話で事前に電話することでもなかったり、迷惑かけると行こうと問い合わせまでできない。 常時話しかけてくれたり1人広場にいたら遊びに来る人も増えると思う)
12	病児保育
13	半年に一回でも、島外のカウンセラーの方に1時間程度相談できる時間があれば嬉しいです。島内にもれないよう配慮しつつも、そのときの悩みに対応できるシステムや管轄を紹介してもらえたりできれば、子育てする親の助けになるかと思います。
14	食事作りを含めた家事支援、家事代行サービス
15	行政サポートとして病児保育、病後児保育、子供家庭支援センターの一時預かり拡充、内地の先進自治体が行なっていることを進んで実施していく姿勢を対外的にもアピールしないと子育て世代の獲得に繋がらないと思います。
16	病児保育、療育
17	気軽に預かったり、遠慮せず頼ってくれる関係の人がいたら、精神的にも体力的にも楽になる。
18	話を聞いてくれる。通院時の預かり。

■教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関して(自由意見)

1	<p>子育てをする環境を整えて欲しい。(保育士不足で待機児童が出る、子ども家庭支援センター職員不足、施設の子どもを1時間に預けられる人数が元々3人と少ない事で希望が通らない事、産前産後のサービスが全員平等に受けられない事など)</p> <p>公共施設のトイレ整備をしてほしい。(病院、公民館には早急におむつ替えシートやベビーチェアをつけてほしい。)</p> <p>雨の日に遊べる施設をつくって欲しい。(体育館や公民館の無料開放や室内遊具の設置)</p> <p>八丈島独自の子育て支援サービスを作って欲しい。(八丈島のお店で使える子育て割引や特典、子ども向けの音楽や食、遊べるイベントの企画運営など)</p> <p>赤ちゃんと一緒に入れる温泉を作ってほしい。(オムツを着用したまま入れるベビーバスやスイムオムツの使用を許可、全施設でなくても、毎日じゃなくてもいいので、赤ちゃん優先施設、曜日を設定してほしい。)</p> <p>災害時に親子向けの情報や災害マニュアルが欲しい。</p>
---	--

2	<p>保小中高を貫く教育の軸となるコンセプトやビジョンの策定をしていただきたいし、その点を考えていく住民会議のような場を設けていただきたい。これからの教育の形はこれまでよりも多様化していくと考えているので、保育士や教師側の現状に合わせたバージョンアップを図っていただきたい。数年に一度の振り返りではなく、毎年の振り返りをリアル世代で当たり前のことにしたい。そして八丈島における教育・保育が他の地域とは大きく異なり、差異のあるものにし、八丈島といえば先進的かつ地域に根ざした教育といわれるようなレベルにまでしていきたい。そのための長期的な組織(委員会)を立ち上げていただきたい。</p>
3	<p>いつもありがとうございます。</p>
4	<p>我々は夫婦で自営業者のため、出産、育児など多くの部分で負担が大きかったです。改善を期待する点は、産前産後保育の制度と日曜日の保育です。</p> <p>3歳未満の子供と新生児の2人家で育児をしながら自宅で仕事をするのは困難を極めました。</p> <p>そんなときに、島独自の保育制度で預けられたならとても助かりました。</p> <p>当時は、陳情書を提出して、なんとか2歳の子供だけを預かっていただきなんとか生きてこられました。育児休業制度もない自営業者にとっては常に気を張り詰める毎日でした。そろそろ八丈町独自の保育入園審査方式を導入しても良いのでは。</p> <p>日曜日の保育についても、真剣に検討頂きたい点です。</p> <p>八丈町では多くの自営業者が活躍されています。自営業者によって島の観光コンテンツが造成されている部分もあるかと思います。</p> <p>今後も多様な自営業者が八丈町で活躍していただくためにも上記2点を強く推し進めて頂きますと幸いです。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・希望する児童全員が学童を利用できるようにしてほしい。子の安全を守るために。 ・児童館がほしい。雨の日の休日に、子が体を動かして遊べる場所がないのはきつい。 ・図書館に自習室があればいいと思う。 ・18歳以下の子を持つ親が時短勤務できる制度を整えてほしい。
6	<p>いつもありがとうございます。</p>
7	<p>現在子供が3人いますが経済的余裕があればもう1人子供が欲しかったです。</p> <p>子供が体調を崩していましたが仕事があったので休めず無理して保育園に行かせたこともあり子供が大事なのか仕事が大変なのか考えさせられた状況の時もありました。</p> <p>その時は休める環境がほしいと思いました。</p> <p>保育料無償化になったことはとても助かっています。</p>
8	<p>もっと子どもを産み育てたいとは思いますが、金銭面的に収支を考えると共働きで保育園に預ける時間が長すぎるのが現状。金銭面のサポートの例としては町営住宅への入居ができればありがたい。(空室があるのであれば入居条件を低所得者のみにしない。)</p>

	<p>収入を減らさないために、病児保育やシッターが利用できれば良いと回答したが、本来ならば家庭で保育したい。国の制度なので仕方ないが育児休業給付金が原則一歳までは短すぎる。</p> <p>早生まれの我が子は育児休業給付金が終了する前に確実に保育園に入園させるために1歳2ヶ月で入園したが、家庭で食べていないような食事ばかりで(食事の形態や、甘いお菓子等)葛藤が大きかった。</p> <p>また、実家が島外(羽田以降乗り継ぎ)であるため人数が増えると帰省のための費用も莫大になるため、産み控えてしまう。(アイきつぷ利用でも高すぎる)島外通院の補助も帰省と同時に済ますには利用できず改善してほしい。</p>
9	<p>子供家庭支援センターの一時利用の申込み手続きがオンラインでできるようにしてほしい。</p>
10	<p>室内で遊べる施設が欲しい、 広くて走り回れる場所です。 雨や強風で外出できなく、つまらないので。</p>
11	<p>保育園が満員のクラスがあるので、保育園や保育士さんが増える環境を整えて欲しい。</p>
12	<p>未就園児の遊び場が少ないので、小さい公園にも滑り台1つでもあると助かる。 雨の日対策で、ある程度の広さがあり、室内遊具(三輪車や車とか)が利用できる施設があると有難い。 月1でもいいので、年少クラス前のプレ事業があるといいと思う。 幼稚園かこども園が1つくらいあってもいいと思う。</p>
13	<p>いつもありがとうございます。 保育園では様々なことに挑戦させて頂き、行きたくない子どもが言っても降園時には笑顔で帰して頂き本当に感謝しております。 未満児用の一時保育では4時間なので、最大の時間をもう少し長く取って頂けると有り難いです。ご検討の程、よろしく願いいたします。</p>
14	<p>育児休業を取得していても、上の子(未満児)を保育園で預かって欲しかった。</p>
15	<p>毎年退職する保育士が若い人ばかりな気がして心配です。上の人ばかり残って若い人が育たず、どんどん減っていく一方ではないかと思えます。周りに潜在保育士が何人もいますが、職場環境が不安で島では働きたくないという声をよく聞きます。内地から保育士(園長レベル)を呼んで園の運営を一新する、内地の園に数日間研修に行かせる等、最新の保育に関する考え方や運営方法を導入することはできませんか？上層部が変わらなければ新しい保育士は定着しないと思えます。</p>
16	<p>保健師さんや保育士さん、看護師さんがが子供の名前をきちんと覚えてくださり、気にかけてくださっていることがとてもありがたいです。いつもありがとうございます。</p>
17	<p>車ありきの島社会。車を持たないことによる弊害は承知の上、不便を受け入れ生活していますが、車登園の環境を前提とされすぎて様々弊害を感じています。仕事抱えて子育ては</p>

	<p>地域関係なく大変なことであり、各自治体等で工夫されていることがたくさんあると思います。東京都全体の教育保育環境と比較していただき、アップデートできることがあれば是非お願いします。(布団毎週持ち帰りは暴風雨バス利用は極めて困難→コット利用、パジャマの必要性→着替えで事足りる等)</p> <p>月5千円くらいで登園に限定したバスやタクシーがあれば利用したい。現在自宅から循環バスと町営バスを乗り継いで登園してます。循環1便→町営末吉行2便は乗り継ぎ出来ず8時半登園不可能、町営末吉行3便が裁判所終点のため9時登園不可能、循環2便→町営4便で10時登園できるが、登園後に坂下戻るためには1時間バス待ちの現状です。登園～坂下戻るまで計2時間半かかります。</p>
18	<p>公園の草刈りやトイレの管理などもっと頻繁に行って欲しい。南原スポーツ公園のトイレが非常に汚かった。</p> <p>子家センは小学生以上は入れないので休日雨天時に遊べる施設が欲しい。</p> <p>八丈の子供達の学力が心配。小学生以上子供がいる家庭が八丈で教育を受けさせたいと思うようなカリキュラムや進学実績を作るべきでは？無料の英会話教室ももっと効果的な講習をしてほしい。</p>
19	<p>0歳を連れて行って楽しめるおもちゃが支援センターに少ないので増やして欲しい</p>
20	<p>室内で体を動かして遊べる施設があると助かります。雨の日や真夏の過ごし方に苦労しています。</p>
21	<p>0才児受け入れ場所</p>
22	<p>一時預かり、0歳～2歳児クラスの枠が少ない</p> <p>観光業で町で盛り上げてるにもかかわらず土日が対応していないまたは、満員で預けてない。</p> <p>登園時目を離さないようにというが、月金は布団が負担で難しい。兄弟いる場合が尚更一度持って経験してください。</p> <p>島の湿度や天気も配慮すると布団はカビやすく、遊んだ後の部屋で寝るなら都内の区立保育園で導入されている</p> <p>「コット」の導入を希望</p> <p>そうすれば駐車場に車の渋滞のヘリ子供と手を繋いで登園できる</p> <p>むつみ保育園の一部解放</p> <p>支援センターでは幼子が多く危険なため</p> <p>2,3歳児以降の子供が安心して天気を気にせず遊べる場所は欲しい</p> <p>また、東京都の離島モデル保育園として都の職員を執行し小規模保育を復活して欲しい</p>

	<p>一時預かりが減て困る</p> <p>町の移住者パンフレットは良いことばかりで 住んで幻滅したので改善を希望</p>
23	<p>まずこのアンケートが親の目線に立っているように感じないです。 行政にはこれまでの慣例などに縛られず、本当の住民のニーズをキャッチして実行する力 をつけて欲しいです。 島民が減るのをみているだけでなく、既存の住民そして移住者がこぞって住みたくなるよう な魅力的な街作り、子育て環境作りをお願いしたいです。</p>
24	<p>雨の日でも思いっきり遊べる施設があると嬉しい。子どもへの指導目的では無料で借りれ る公民館も、遊ばせる目的では有料になることが理解できない。遊ぶ場所はとても大事で す。</p>
25	<p>天候不良時でも行ける屋内の遊び場が欲しい。授乳や食事をしても良いスペース、こども トイレなどがある屋内の遊び場。</p>
26	<p>○病児保育、病後児保育、一時預かりの拡充 ○質問数や質問文の文字数が多く、答えづらく感じました。(まさか 31 問もあるとは…回 答者数に影響しないかな、と思いました。)予備調査はされましたでしょうか？ ○子育て支援対策につきましては今後ともよろしく願いいたします。</p>
27	<p>病児保育を整えてほしい。発熱後 24 時間、保育園の登園??というルールを作っているの だから、共働きでも負担なくそのルールに則れる仕組みを整えてほしい。 就学前の障害の疑いがある子が支援を受けられるような療育先を作るべき。早期発見、 早期対応、早期療育が、小児期の障害のある子には必要なのに、全くカバーされていな いことが心配。</p>
28	<p>保育園しかなく幼稚園を選べないのは移住に躊躇する。保育園も働きたくてもうちは 1 年 間待機で、とても辛かった。じっとしていられない子はココセンやひよこの集まりはとても行 きづらく、利用できなかった。</p>
29	<p>保育従事者に対する手当の拡充、働きやすい職場環境作りを行い、保育に従事する人の 人員確保、従事する人の心身健康を目指していただきたい。</p>

資料3 小学生保護者用ニーズ調査結果

(再掲)

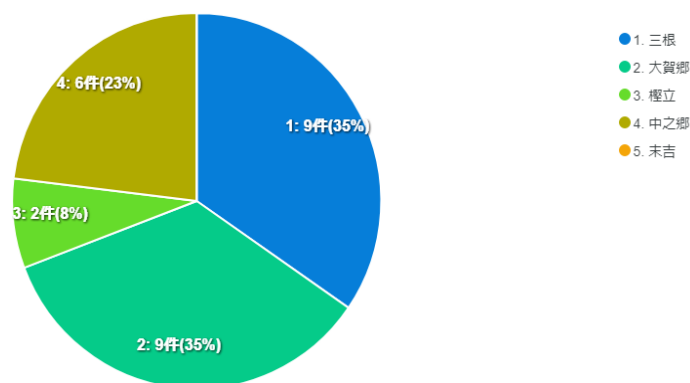
1 対象者	三根小学校、大賀郷小学校、三原小学校の全校生徒の保護者
2 対象者数	320人
3 調査方法	アンケート回答二次元コードを印刷した文書を配布、保護者がWEB上で回答する方法で実施
4 調査期間	令和6年10月15日(火)～令和6年10月31日(木)

調査対象者	回答者数	有効回答率
320人	26人	8.12%

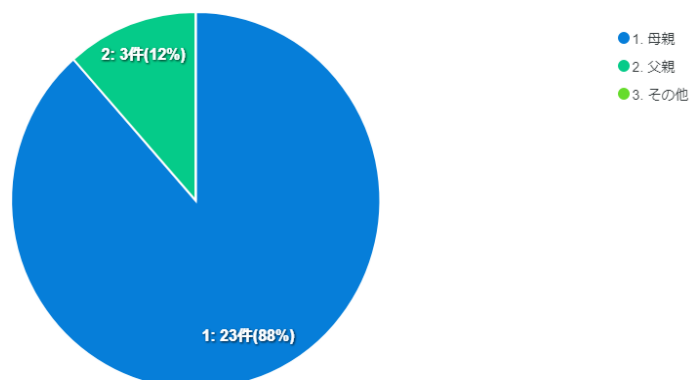
世帯の状況や、緊急時の子どもの預け先の有無など24問の調査項目を設定しました。小学校の保護者を対象として、WEB上でのアンケートを実施しました。集計結果は確保を図るべき教育・子育て支援の量の見込みの算出や質の状況を把握するために役立っています。

■お住まいの地域について

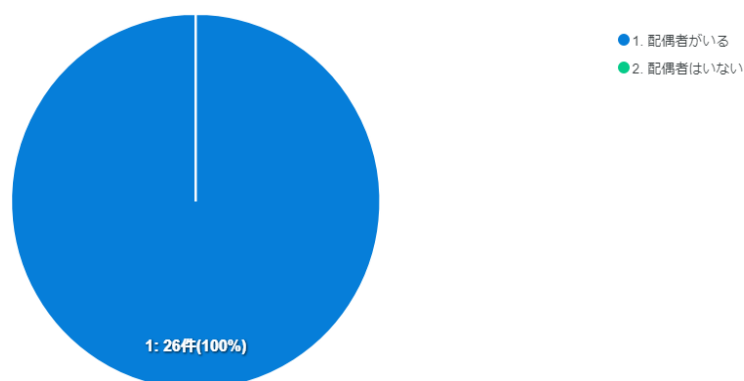
小学生世帯は三根 35%、大賀郷 35%、樫立 7%、中之郷 23%、末吉 0%となっています。



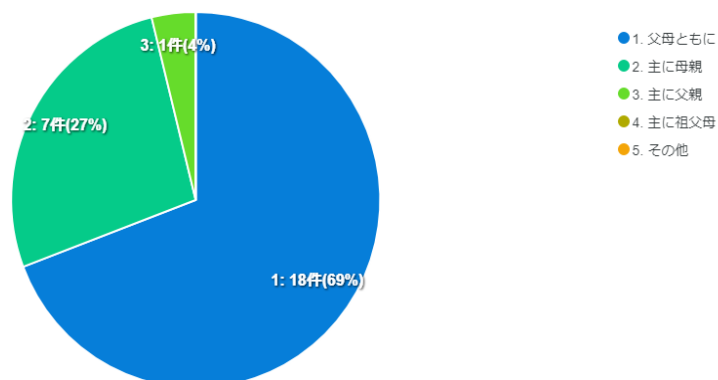
■この調査票にご回答いただいた方について
母親が回答 88%、父親が回答 12%となっています。



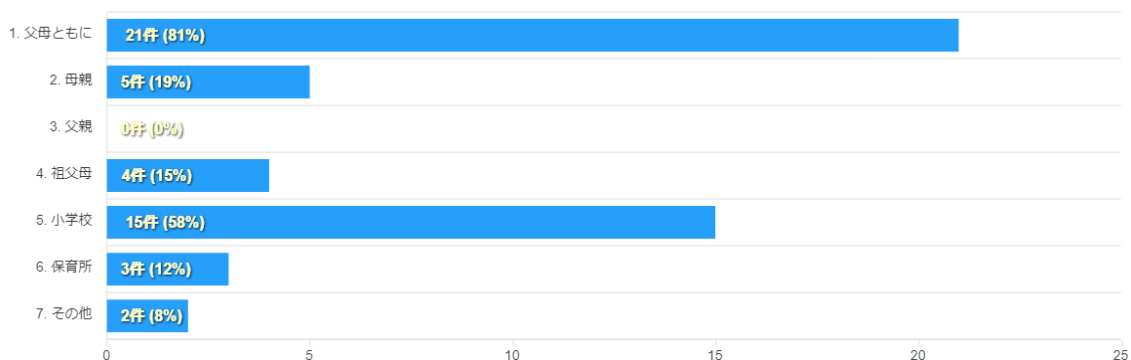
■この調査票にご回答いただいている方の配偶関係について
配偶者がいるが 100%となっています。



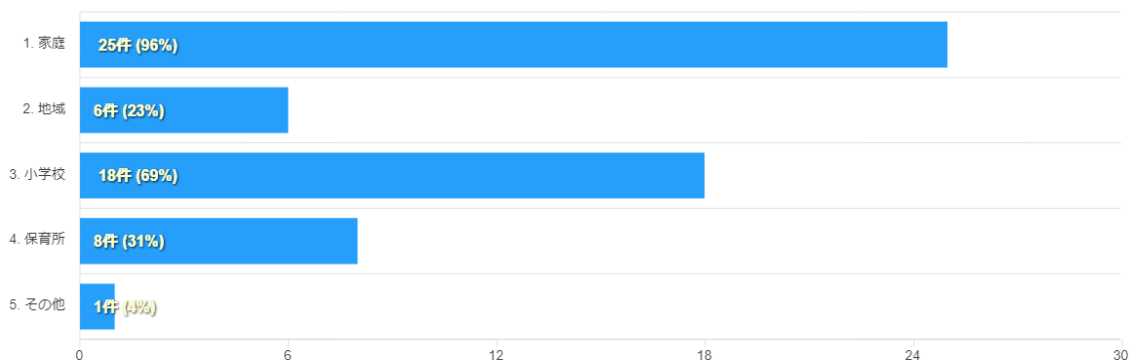
■子育て(教育を含む)を主に行っている人について
「父母ともに」が 69%、「主に母親」が 27%、「主に父親」が 4%となっています。



■子育て(教育を含む)に日常的に関わっている方、または施設について当てはまるものすべて「父母ともに」が81%、「母親」が19%、祖父母15%、小学校58%、保育所12%、その他2%となっています。

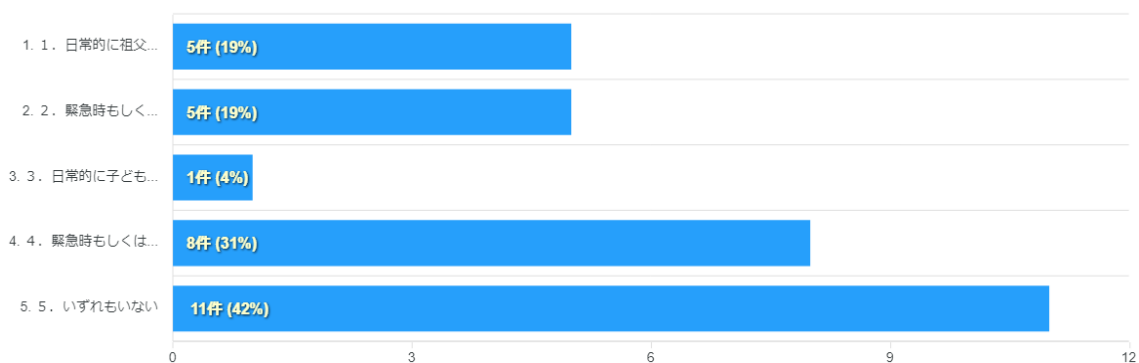


■子育て(教育を含む)に、もっとも影響すると思われる環境について、当てはまるもの全て「家庭」が96%、「地域」が23%、「小学校」が69%、「保育所」が31%、「その他」が1%となっています。



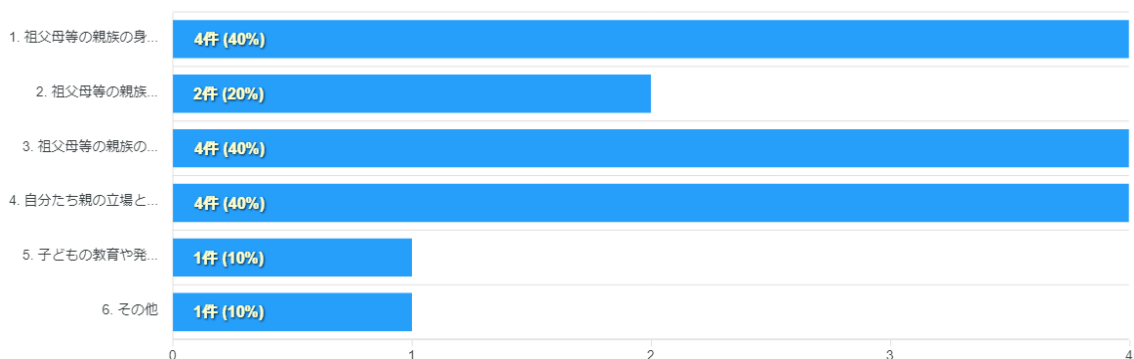
■日頃、子どもをみてもらえる親族・知人の有無について

「日常的に祖父母等の親族にみてもらえる」が19%、「緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる」が19%、「日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が4%、「緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる」が31%、「いずれもない」が42%となっています。



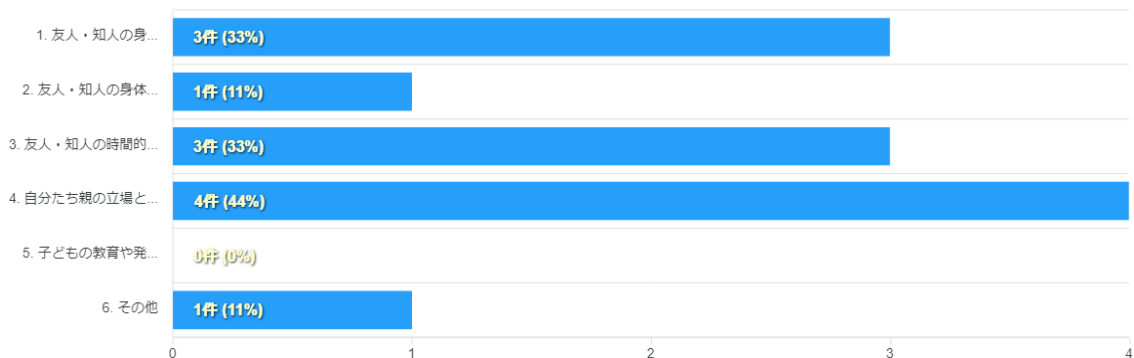
■祖父母等に子どもをみてもらっている状況について

「祖父母等の親族の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が40%、「祖父母等の親族の身体的負担が大きく心配である」が20%、「祖父母等の親族の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が40%、「自分たち親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が40%、「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある」が10%、「その他」が10%となっています。



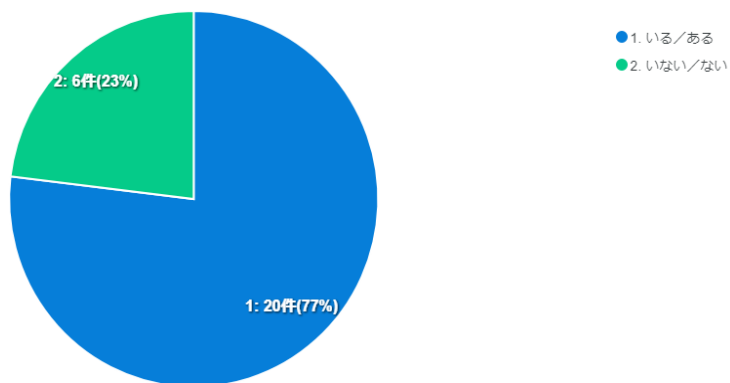
■友人・知人に子どもをみてもらっている状況について

「友人・知人の身体的・精神的な負担や時間的制約を心配することなく、安心して子どもをみてもらえる」が 33%、「友人・知人の身体的負担が大きく心配である」が 11%、「友人・知人の時間的制約や精神的な負担が大きく心配である」が 33%、「自分たちの親の立場として、負担をかけていることが心苦しい」が 44%、「子どもの教育や発達にとってふさわしい環境であるか、少し不安がある」が 0%、「その他」が 11%となっています。



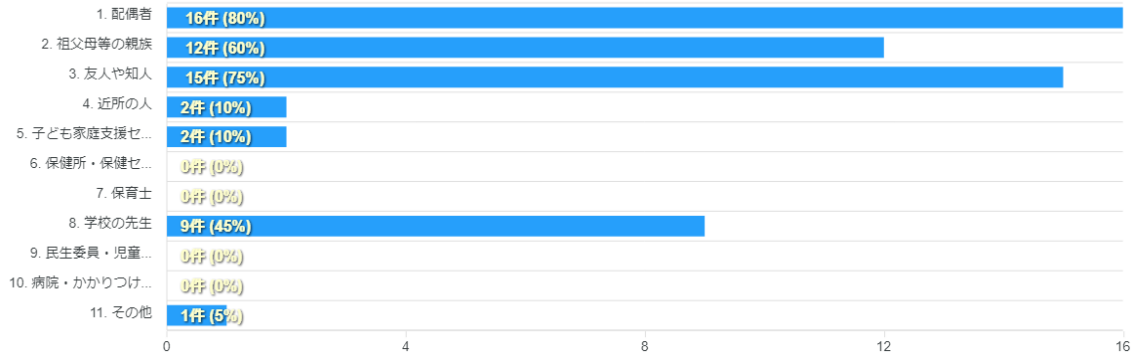
■子育て(教育を含む)をするうえで、気軽に相談する人の有無について

「いる/ある」が 77%、「ない」が 23%となっています。



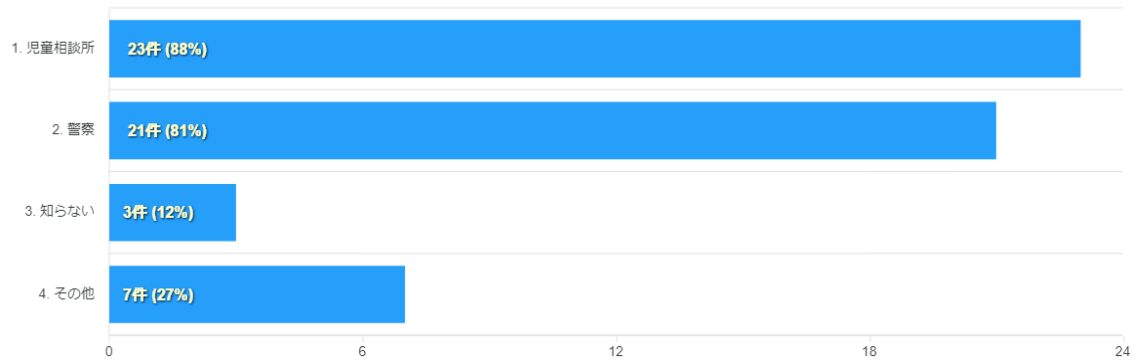
■気軽に相談できる人・施設について、当てはまるものすべて

「配偶者」が 80%、「祖父母などの親族」が 60%、「友人や知人」が 75%、「近所の人」が 10%、「子ども家庭支援センター」が 10%、「学校の先生」が 45%、「その他」が 5%となっています。



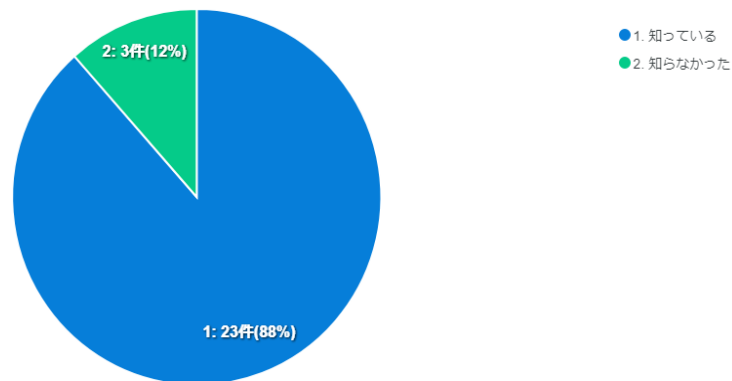
■「児童虐待」の通告先について、知っているものすべて

「児童相談所」が 88%、「警察」が 81%、「知らない」が 12%、「その他」が 27%となっています。



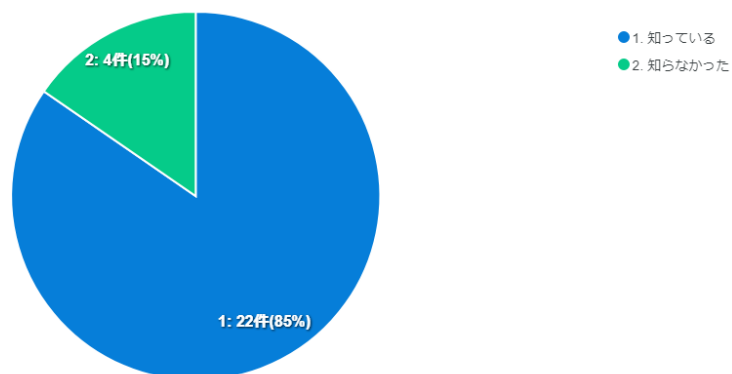
■「児童虐待」の通告は「虐待の疑いがあると思う」場合でも、連絡できることを知っていたか。

「知っている」が 88%、「知らなかった」が 12%となっています。



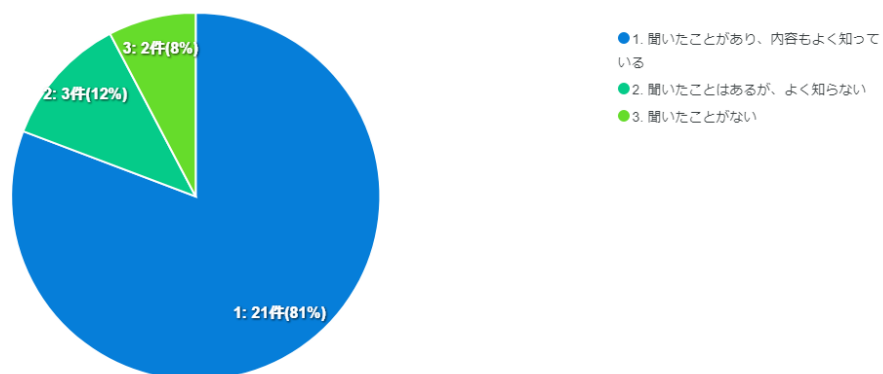
■ 通告しても通告者が特定されないように配慮されることを知っていたか。

「知っている」が 85%、「知らなかった」が 15%となっています。



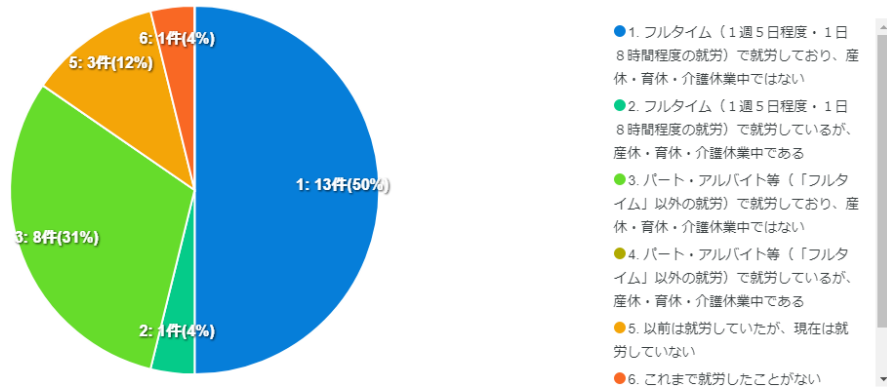
■ 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるか。

「聞いたことがあり、内容もよく知っている」が 81%、「聞いたことはあるが、よく知らない」が 12%、「聞いたことがない」が 8%となっています。



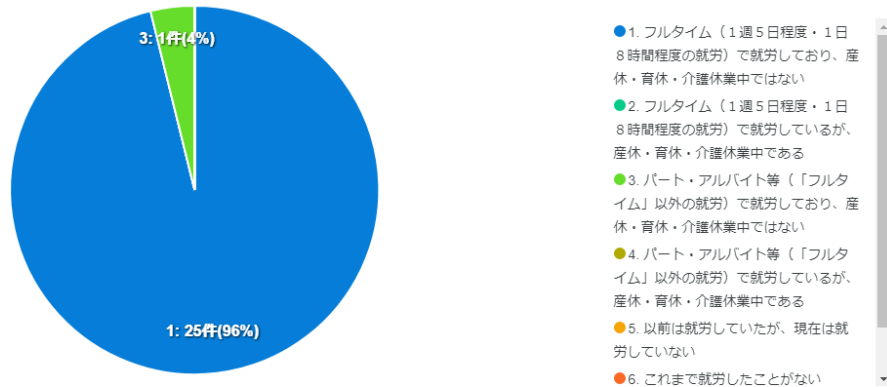
■保護者の就労状況について(母親)

「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 50%、「フルタイムで就労しており、休業中である」が 4%、「パート・アルバイト等で就労しており、休業中ではない」が 31%、「パート・アルバイト等で就労しており、休業中である」が 0%、「以前は就労していたが、現在は就労していない」が 12%、「これまで就労したことがない」が 4%となっています。



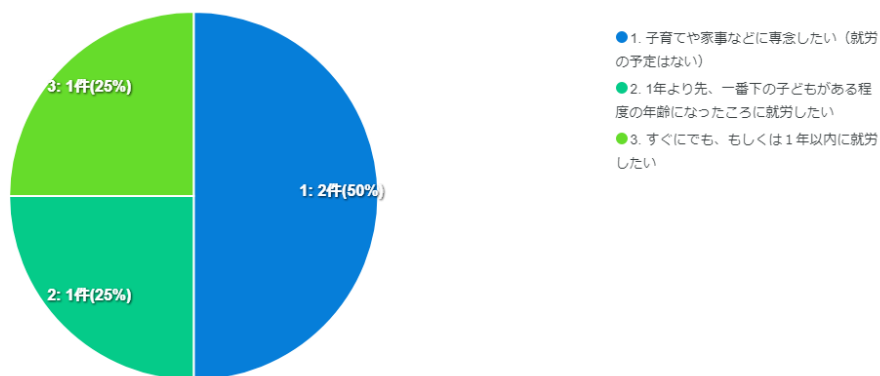
■保護者の就労状況について(父親)

「フルタイムで就労しており、休業中ではない」が 96%、「パート・アルバイト等で就労しており、休業中ではない」が 4%となっています。



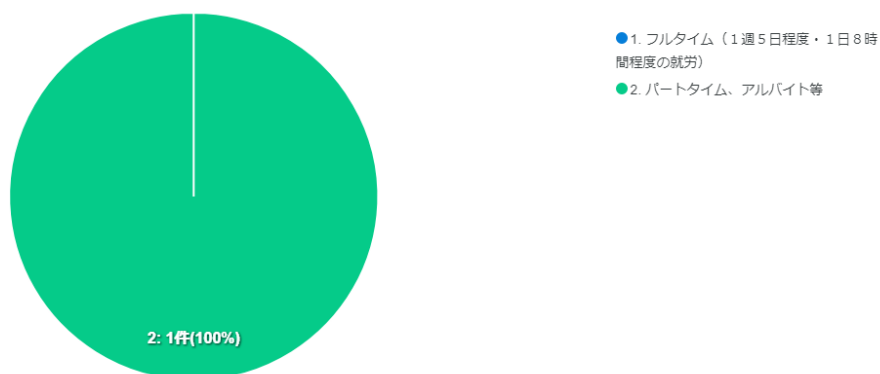
■就労希望の有無について(母親)

「子育てや家事に専念したい(就労の予定はない)」が50%、「1年より先、一番下の子どもがある程度の年齢になったときに就労したい」が25%、「すぐにでも、もしくは1年以内に就労したい」が25%となっています。



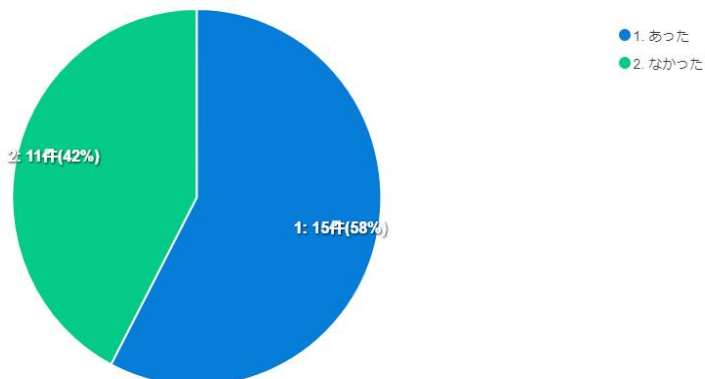
■希望する就労形態について(母親)

「フルタイム」が0%、「パート・アルバイト等」が100%となっています。



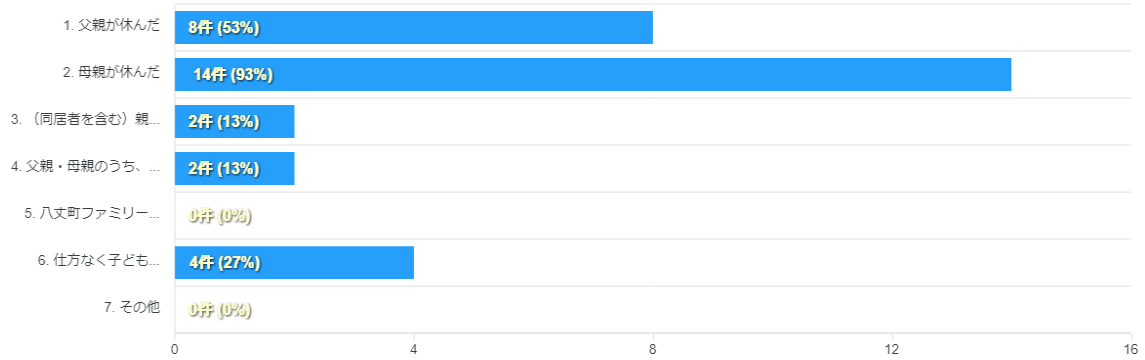
■子どもが病気やケガで学校に行けなかったことがあるか。

「あった」が58%、「なかった」が42%



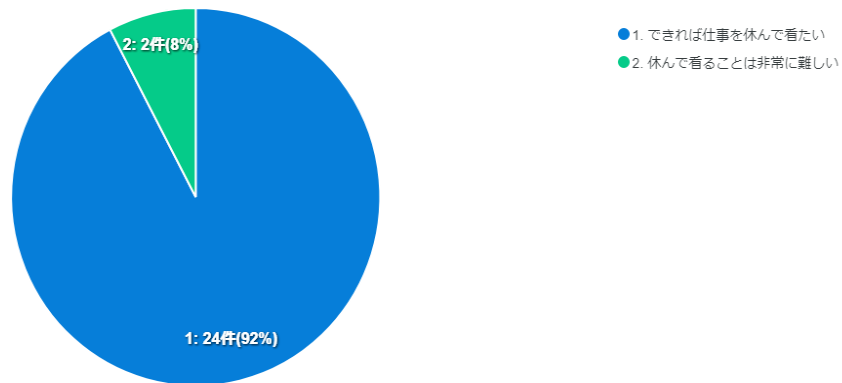
■子どもが病気やケガで休んだ時の対処方法について(当てはまるものすべて)

「父親が休んだ」が53%、「母親が休んだ」が93%、「(同居者を含む)親族・知人に子どもをみてもらった」が13%、「父親又は母親のうち就労していない方が子どもをみた」が13%、「仕方なく子どもだけで留守番させた」が27%となっています。



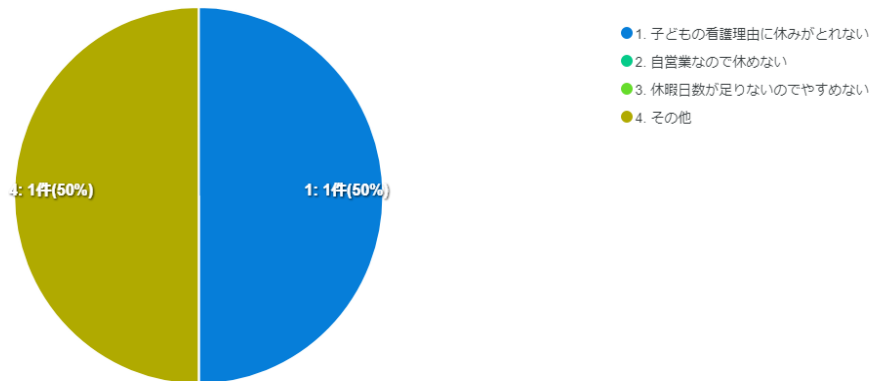
■できれば父母のいずれかが仕事を休んで看たいか。

「できれば仕事を休んで看たい」が92%、「休んで看ることは非常に難しい」が8%



■仕事を休んで看ることは難しいと思う理由について

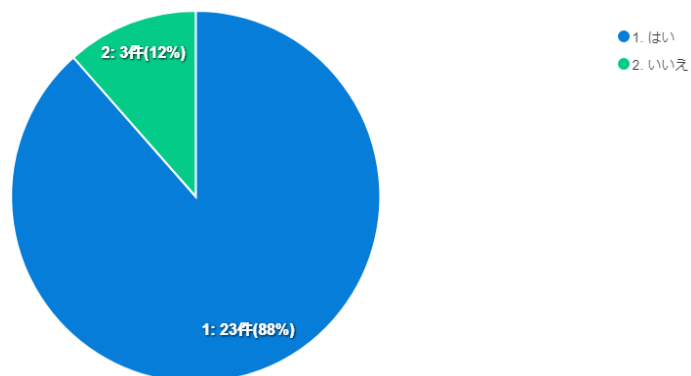
「子どもの看護理由に休みがとれない」が50%、「その他」が50%となっています。



■事業で知っているもの、利用したことがあるもの(八丈町で未実施の事業含む)

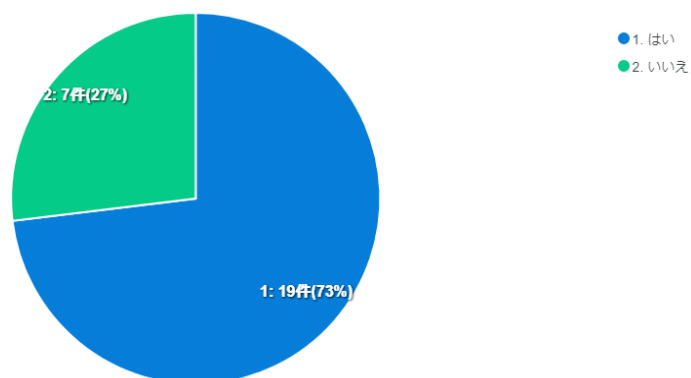
「①母親(父親)学級、両親学級、育児学級」を知っている。

「はい」は 88%、「いいえ」は 12%となっています。



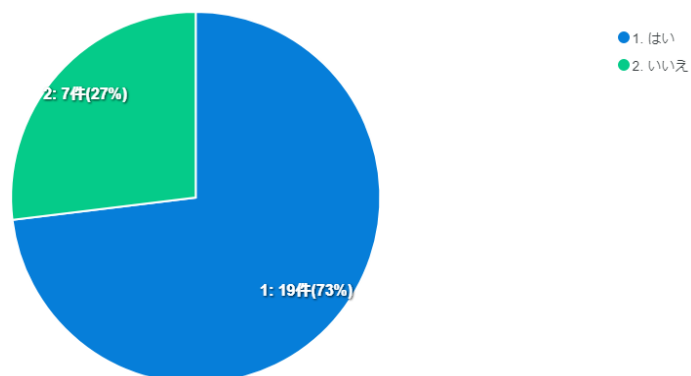
「①母親(父親)学級、両親学級、育児学級」を利用したことがある。

「はい」は 73%、「いいえ」は 27%となっています。

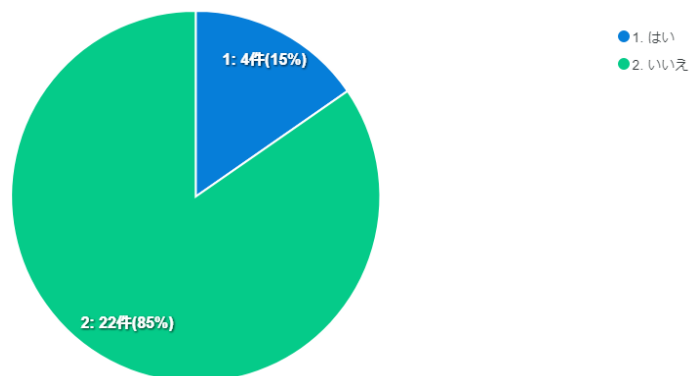


「②町役場(保健センター含む)」の情報・相談事業を知っている。

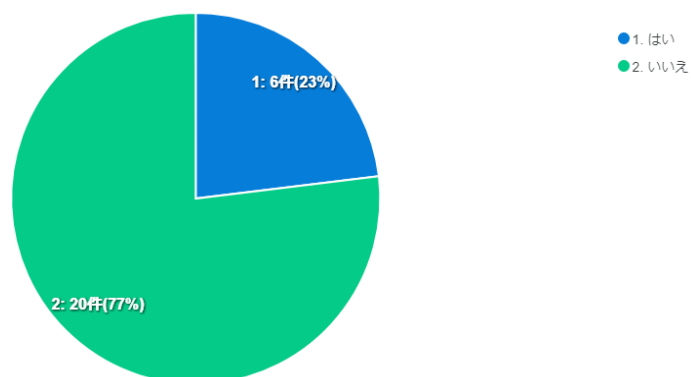
「はい」は 73%、「いいえ」は 27%となっています。



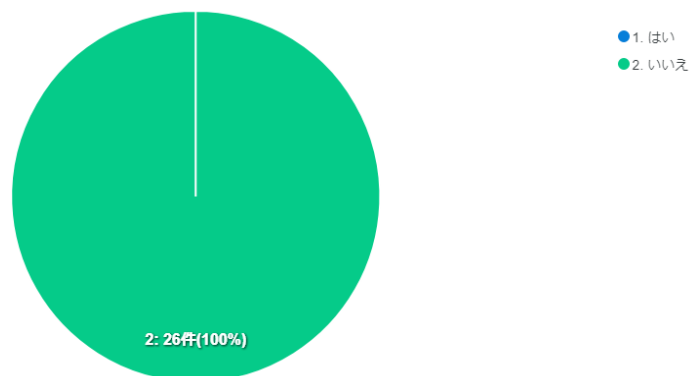
「②町役場(保健センター含む)」の情報・相談事業をこれまでに利用したことがある。
「はい」は 85%、「いいえ」は 15%となっています。



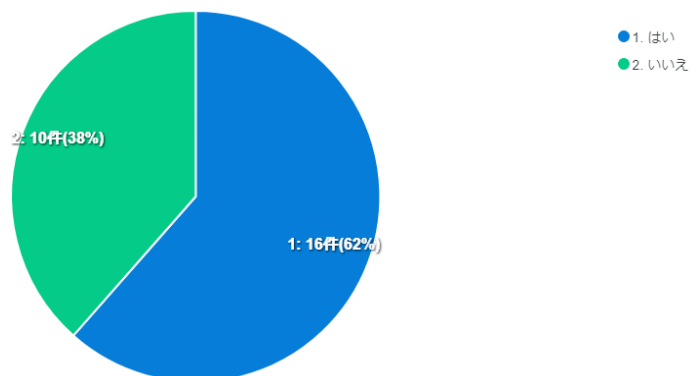
「③家庭教育に関する学級・講座」を知っている。
「はい」は 77%、「いいえ」は 23%となっています。



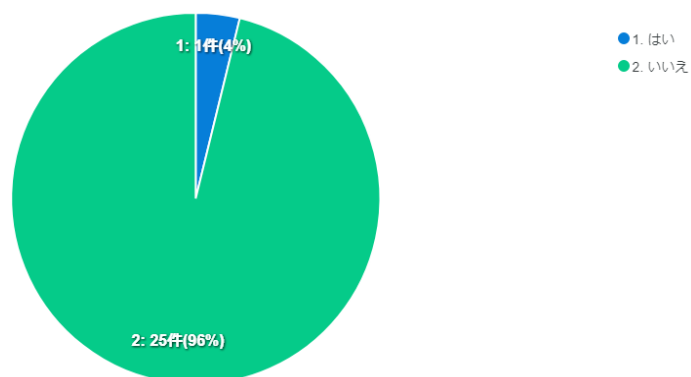
「③家庭教育に関する学級・講座」を利用したことがある。
「いいえ」が 100%となっています。



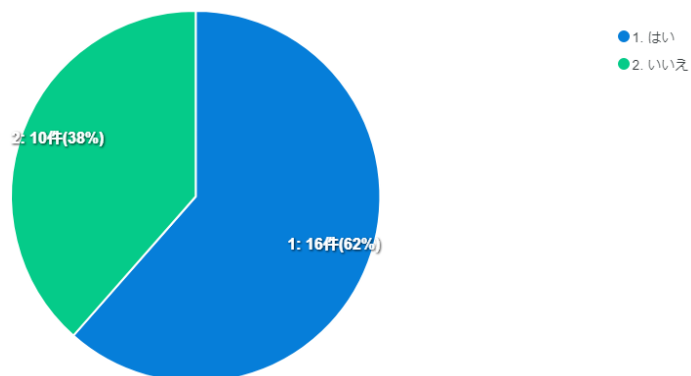
「④教育相談センター・教育相談室」を知っている。
「はい」が 62%、「いいえ」が 38%となっています。



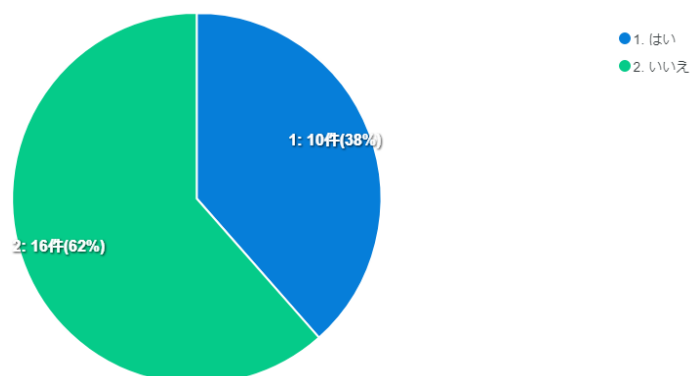
「④教育相談センター・教育相談室」を利用したことがある。
「はい」が 4%、「いいえ」が 96%となっています。



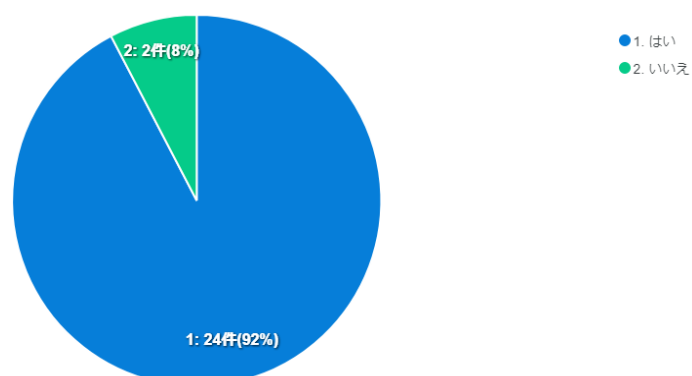
「⑤保育所の園庭開放・保育室等の開放(こどもひろば)」を知っている。
「はい」が 62%、「いいえ」が 38%となっています。



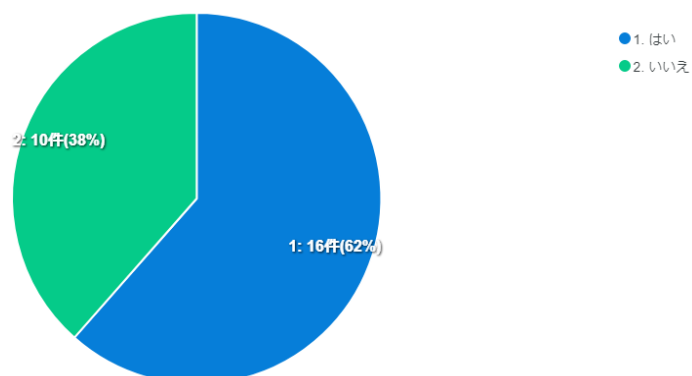
「⑤保育所の園庭開放・保育室等の開放(こどもひろば)」を利用したことがある。
「はい」が 38%、「いいえ」が 62%となっています。



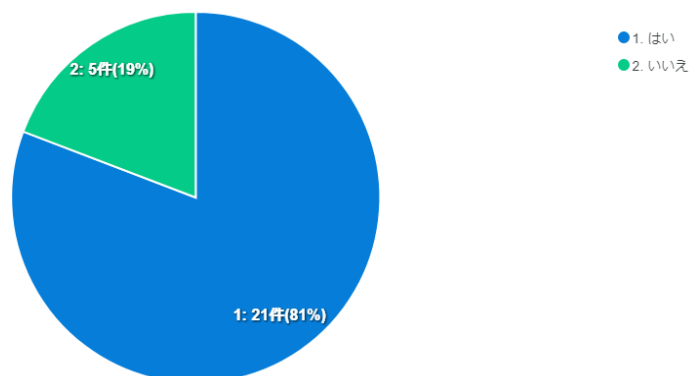
「⑥子ども家庭支援センター」を知っている。
「はい」は 92%、「いいえ」は 8%となっています。



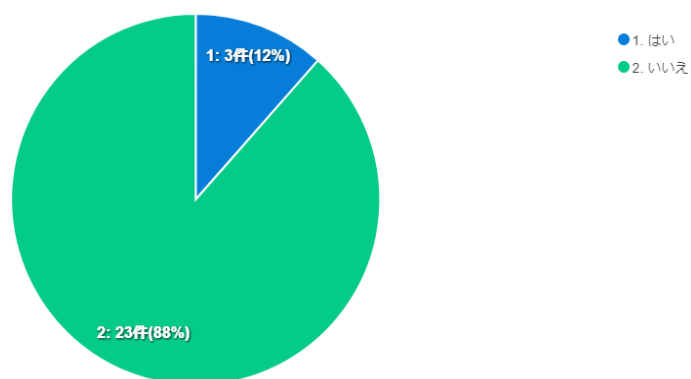
「⑥子ども家庭支援センター」を利用したことがある。
「はい」が 62%、「いいえ」が 38%となっています。



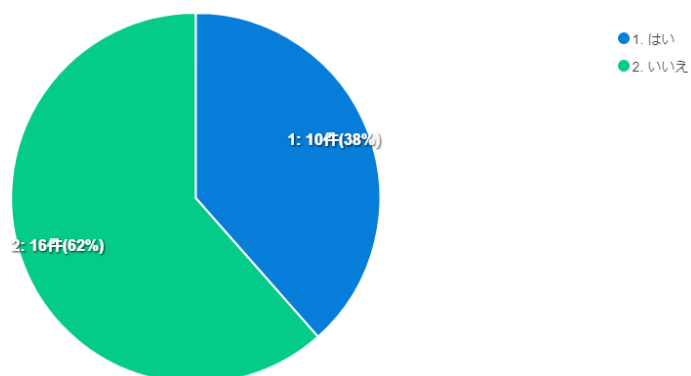
「⑦ファミリー・サポート・センター」を知っている。
「はい」が 81%、「いいえ」が 19%となっています。



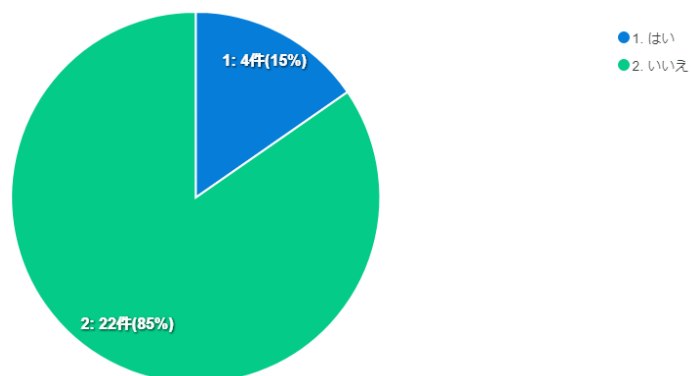
「⑦ファミリー・サポート・センター」を利用したことがある。
「はい」が 12%、「いいえ」が 88%となっています。



「⑧子育て支援情報誌」を知っている。
「はい」が 38%、「いいえ」が 62%となっています。

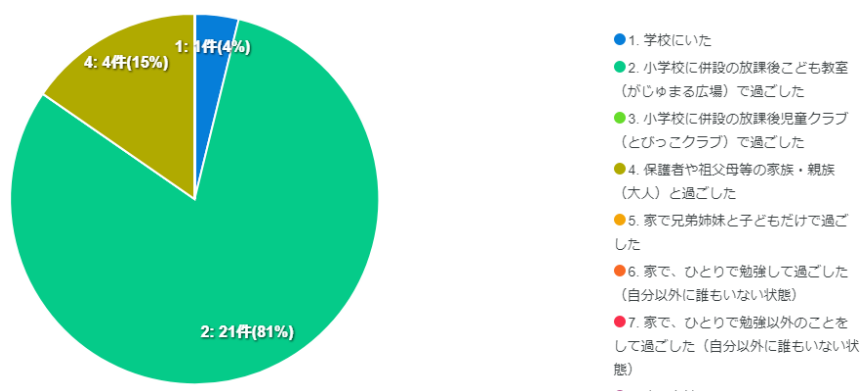


「⑧子育て支援情報誌」を利用したことがある。
 「はい」が 15%、「いいえ」が 85%となっています。



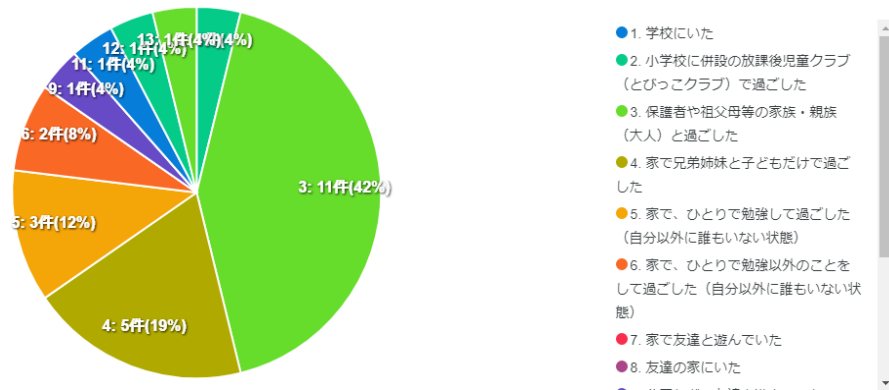
■平日の放課後の子どもの過ごし方について(14～16時)

「学校にいた」が 4%、「小学校に併設の放課後こども教室(がじゅまる広場)」で過ごした」が 81%、「保護者や祖父母等の家族・親族と過ごした」が 15%となっています。



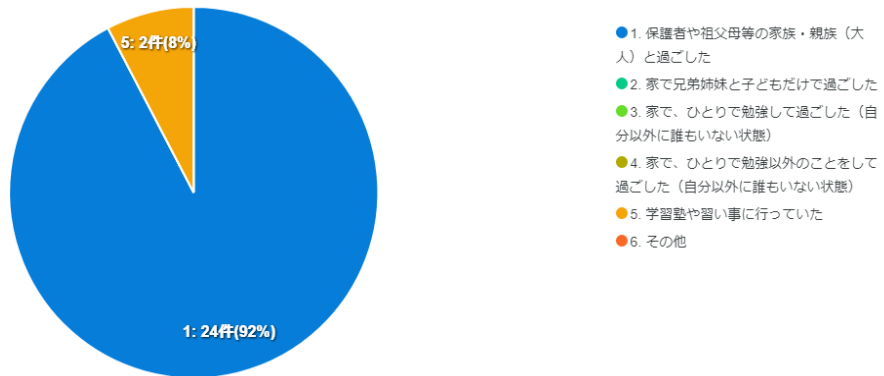
■平日の放課後の子どもの過ごし方について(16～18時)

「小学校に併設の放課後児童クラブ(とびっこクラブ)で過ごした」が4%、「保護者や祖父母等の家族・親族(大人)と過ごした」が42%、「家で兄弟姉妹と子どもだけで過ごした」が19%、「家で、ひとりで勉強して過ごした(自分以外誰もいない状態)」が12%、家で、ひとりで勉強以外のことをして過ごした(自分以外誰もいない状態)が8%、「友達の家に行った」が4%、「部活動・クラブ活動・スポーツ少年団等(子ども会活動やスポーツ活動など)をしていた」が4%、「学習塾や習い事に行っていた」が4%、「その他」が4%、となっています。



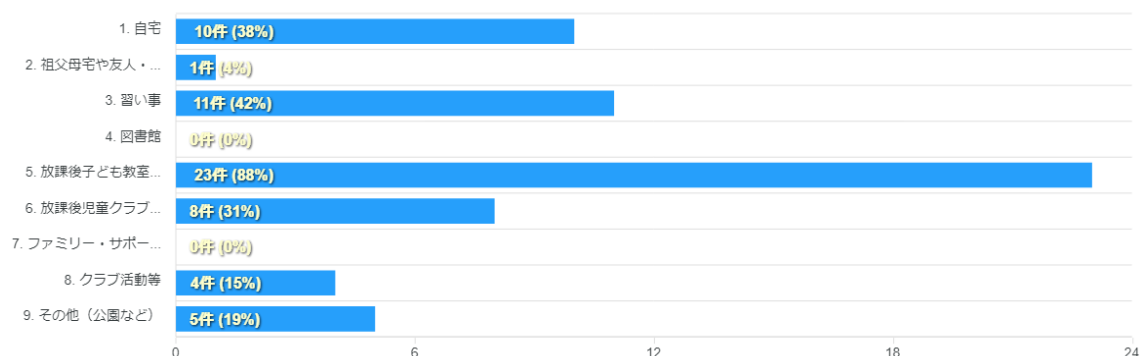
■平日の放課後の子どもの過ごし方について(18～20時)

「保護者や祖父母等の家族・親族(大人)と過ごした」が92%、「学習塾や習い事に行っていた」が8%となっています。



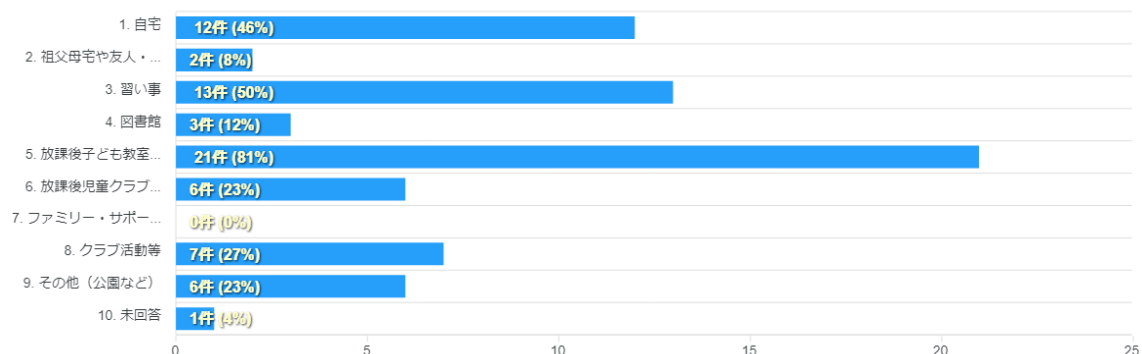
■ 子どもの放課後の時間をどのように過ごさせたいか

「自宅」が 38%、「祖父母や友人宅」が 4%、「習い事」が 42%、「放課後子ども教室」が 88%、「放課後児童クラブ」が 31%、「クラブ活動」が 15%、「その他(公園など)」が 19%となっています。

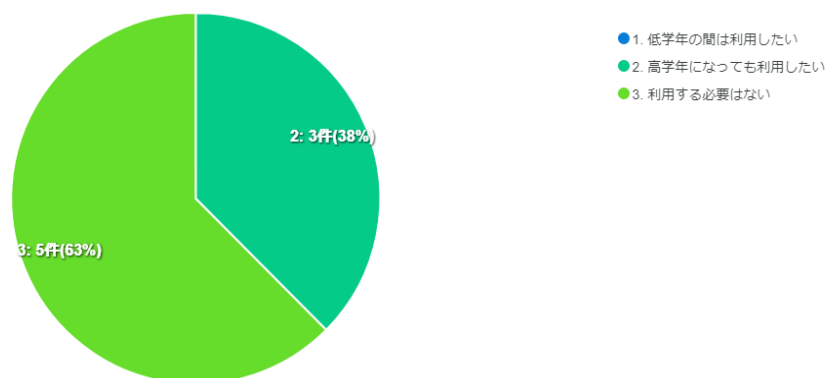


■ 子どもが小学校高学年になったら、放課後をどのように過ごさせたいか

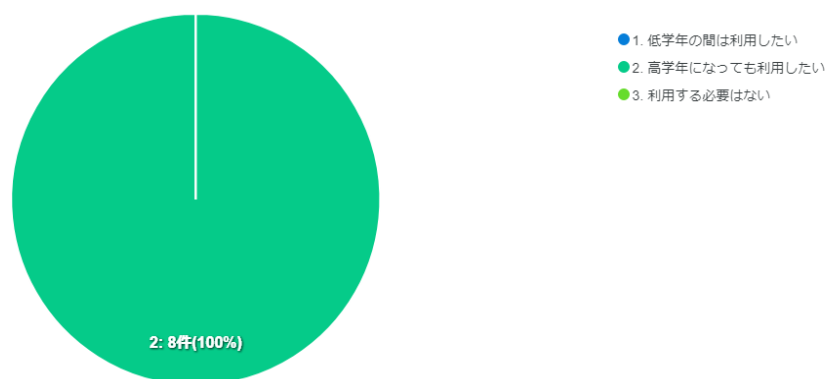
「自宅」が 46%、「祖父母や友人宅」が 8%、「習い事」が 50%、「放課後子ども教室」が 81%、「放課後児童クラブ」が 23%、「クラブ活動」が 27%、「その他(公園など)」が 23%、「未回答」が 4%となっています。



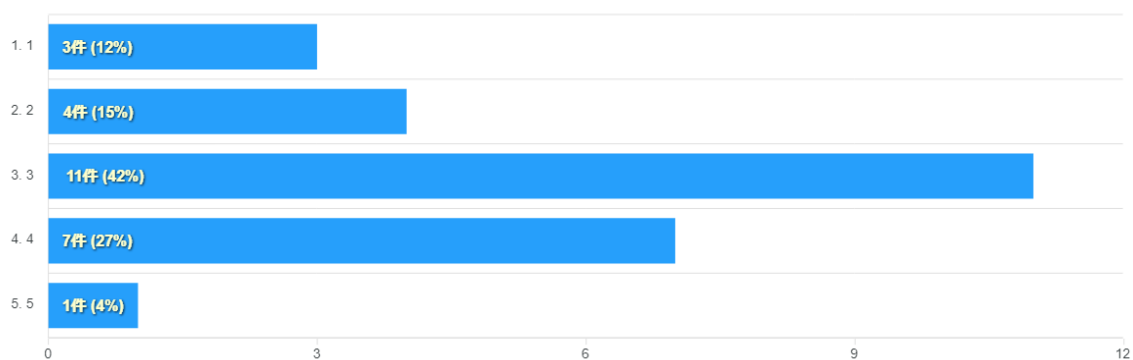
■子どもについて、土曜日の放課後児童クラブ(とびっこ)の利用希望の有無について「高学年になっても利用したい」が38%、「利用する必要はない」が63%となっています。



■子どもについて、夏休み・冬休みなどの長期の休業中の放課後児童クラブの利用希望の有無について「高学年になっても利用したい」が100%となっています。

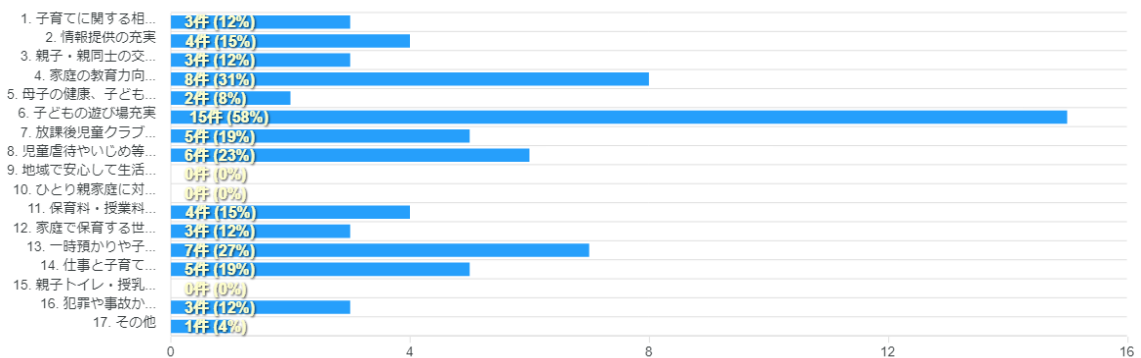


■八丈町における子育て環境や支援への満足度(1~5段階のどこか)「1」12%、「2」15%、「3」42%、「4」27%、「5」4%となっています。



■八丈町の子育て環境充実のため、今後どのようなことが重要だと思うか(3つまで選択)

「子育てに関する相談体制の充実」が12%、「情報提供の充実」が15%、「親子・親同士の交流の場の充実」が12%、家庭の教育力向上のための学習機会の充実が31%、「母子の健康、子どもの発達支援のための健診や訪問等の充実」が8%、「子どもの遊び場充実」が58%、「放課後児童クラブ」が19%、「児童虐待やいじめ等に対する対策の充実」が23%、「保育料・授業料などの経済支援の充実」が15%、「家庭で保育する世帯へのサポート支援の充実」が12%、「一時預かりや子育て短期支援事業などの緊急的・一時預かり体制の充実」が27%、「仕事と子育てが両立できるよう労働時間の改善など、企業や労働者に対する啓発」が19%、「犯罪や事故から子どもを守るための取組の充実」が12%、「その他」が4%となっています。



■子育て(教育を含む)をする上で、周囲(身近な人、行政担当者など)からどのようなサポートがあればよいか(自由意見)。

1	坂上地区に雨の日に友達と過ごせる場所
2	保育園までは、すすく相談で話を聞いてもらったり、心理相談に行ったり、発達検査を受けていました。サービス向上としては手厚いと思います。小学校に上がってからは、利用していません。校内のもめごとを聞くことはありませんが、まったくないわけでもないと思うのでふあんではあります。
3	コミュニケーションの場 子育てには親子ともども、たくさんの人との関わりが必要不可欠だが、コミュニケーション下手な親が増え、子育てにも影響が出ていると思う。
4	限られた保育園や学校しかないため、 それ以外の選択肢も今後必要である。 不登園や不登校、時々保育園や学校に行きたくない日にも親も子どもも気軽に集まれる安心できる居場所が必要。
5	高校、大学等、進学をする際に、学費だけでなく、生活費が高額であり、家計を圧迫する。 子供をたくさん欲しいと思っても、金銭的に諦めなければいけない状況にあると思う。
6	・一時預かり ・健診や予防接種の案内

	・支援センターなど親子で行ける遊び場
7	○病児・病後児保育(小学生まで。親が休むしかなく、大変厳しい) ○とびっこクラブ(通常は土曜日休みだが、突発的な父母の仕事となった際、土曜日に利用できなかった。低学年の子ども1人を土曜日終日放置した。改善をのぞみます)
8	未就学児と保護者が集まれる遊び場、場所があればその中で相談しやすい
9	不安や心配を聞いてくれ、共感してくれる。前向きに考えられる提案をしてくれる。子育てから離れて自分の時間を持つ時間をくれる。

■最後に、教育・保育環境の充実など子育ての環境や支援に関して(自由意見)

1	雨天でも遊べる室内遊び場があればよい。雨天時でも野球やサッカーができる室内運動場がほしい。少ないと聞いているので保育士さん看護師さんの増員。島外で採用活動をするべき。その為の住居や引っ越し補助などの導入。教育から少し外れますが空き家の活用。島外からの移住もそうですが、坂下から坂上に引っ越したい人がいても住めなかったり貸してくれなかったりする。子育て世代が増えればと思っています。
2	今まで3つの自治体で子育てをしてきましたが、八丈町の多くの取組は素晴らしいと思います。特に、がじゅまる運営はありがたいです。これからも続けてほしいです。 一方、子供を大事にすることが最重要であるにも関わらず、家庭で放っておかれている義務教育期間の子供が一定数実在することに憂慮しています。親自身の教育力をつけるため、家庭に向けた魅力的な情報の発信の必要があると思います。寂しい思いや困った思いをする子供が次の世代でも繰り返されないように、今できることを考えたいです。 また、八丈町のタブレット貸与についてもメリットだけがあると思いません。ネット・ゲーム依存が疑われる子供が多い実態を把握したルール作りも必要だと思えます。深夜の時間帯は使えないようにする等、子供を守るために大人ができることを考え、動いてほしいです。よろしく願いいたします。
3	現在子供が3人いますが経済的に余裕があれば子供はもっと欲しいと思っていました。 物価が高く頑張っても経済的に余裕がないのが悲しい。 子供はとにかくお金がかかりますので何か支援していただきたいです。
4	・病児保育室の開設 ・とびっこ利用の利便性の向上 特に長期休暇中、高学年でも利用出来る仕組みや 昼食の宅配弁当などのサービス ・予防接種の時間や曜日の拡大 ・通学路の整備 木や雑草、苔などが生い茂っている所の整備
5	・アンケート配布や内容について QRコード配布からアンケートの回答が出来るまでに日にちがあり、回答結果に影響が出

	<p>るので、配布したらすぐに回答できるようにするべき。</p> <p>全体的にまとまりがなく読みにくいので、(○の位置や入力の仕方など)回答するのが嫌になる。</p> <p>内容(文章)もわかりにくく、回答しづらい。</p> <p>以上の事も踏まえ、本当に意見を聞く気持ちがあるのか疑問に思う。改善が必要。</p> <p>・子育ての環境や支援について</p> <p>室内で過ごせる施設があると良いと思う。子どもたちが体を動かせる場や勉強・読書など出来るフリースペースなど。地域の方とも交流出来る場など。</p> <p>・別件ですが、今年度は夏休み(8月)のとびっこが坂下のみでの開催でした。三原小の働く保護者が利用するとびっこが、全く保護者の助けになっておらず、救済措置もとられていなかった(小1の子が1人で毎日留守番をしていたとの話も聞いた)改善を求めます。</p>
6	<p>答えづらいアンケートです。例えば自営業の場合に答える選択肢がありません。</p> <p>子育て環境等の意見は特にありません。</p>
7	<p>とびっこのお弁当購入が実現すれば大変助かります。</p>
8	<p>◎仕事と子育ての両立には休みやすい環境が必要である。子どもの看護や行事で年休が足りないという話をよく聞く。私自身もどうやっても足りず、苦渋の決断で体調不良の子を留守番させたり、行事の参加も見送ったりしたことが何度もある。子育て世代の労働者に対し、年休に振り回されないよう、休むことに罪悪感が感じないような制度に改善してもらいたい。</p> <p>看護休暇は小学生にも必要である。</p> <p>休みを取る側にも節度のある休暇の取り方を意識してもらう必要があるが、八丈町においては労働時間の改善というよりも企業側に対し、年休や人手不足などの改善を啓発し、休める環境を作るサポートをしていただきたい。</p> <p>◎現代は子どもを産んだあとは保育園やその他サービス任せ。体調不良でも預けたり、過剰な早朝・残留保育、一時預かりを利用したりするのではなく、子どもを最優先した子育てができる家庭が増えることを切に願う。</p>
9	<p>病児保育があればいいのにとおもいます。</p>
10	<p>子供(小学生)が放課後に島の伝統文化に気軽に参加できる場が欲しい。例えば黄八丈に興味を持たせる為のきっかけとして、簡単な織物学習の場、八丈太鼓を気軽に叩ける場、島コトバで遊べる場、島の料理を学べる場等ができる伝統継承への近道だと考える。</p> <p>外から呼ぶ事に注力するのではなく、今いる子供達にいかに伝統を楽しく伝えるか(大人が伝統を難しくしてしまっている)が大切なのではと考える。</p>
11	<p>問題に対して、人数が少ないからと取り合ってもらえない場合がある。声があがっていない</p>

いだけで、不便に思っている人はいるはず。発言者が1人だからと取り合わないのではなく、必要かどうかをしっかりと考えて判断して欲しい。
